

F-0340

0007

127

145

寫

51934-

歐米周

商公第××號

昭和二年三月十八日

昭和二年三月十一日

在ソヴィエト聯邦

特命全權大使 田 中都 吉

外務大臣男爵 幣 原 喜重郎 殿

西部支那產物賣ヲ西比利亞鐵道

ニヨリ輸送ノ計畫ニ就テ報告ノ件

本月七日「セミバラチンスク」發「タツス」通信トシテ三月十日「イズヴェスチヤ」紙ノ報スル處ニヨレハ北京政府ノ西部支那特派員「キズイイチン」ナルモノ「セミバラチンスク」ニ來リ北京政府ハ

ソヴィエト聯邦帝國大使館

件  
蘇聯邦政府  
外務省  
田中都吉

西部支那ト中部支那間ノ物資輸送經路ヲ從來ノ「ゴビ」砂漠橫斷ヲ廢シ西比利亞鐵道ニヨルコトニ變更セル案ヲ可決セルカ其ノ結果運賃一布度ニ付從來ノ八留ヨリ六留ニ輕減シ輸送日數ニ於テ從來ノ五六ヶ月ヲ二ヶ月ニ短縮スルヲ得物資ハ北京、天津、浦鹽、西比利亞其ノ他ニ仕向ケラルルニ至ル可シト語レル趣ナリ  
猶同紙ハ「ソ」聯邦政府及西部支那官憲トノ間ニ本問題ノ決定ヲ見タル上通商交渉ノ開始ヲ見ル可シ云々ト附言セリ  
右新聞切抜ト共ニ報告ス (切抜)

ソヴィエト聯邦帝國大使館

F-0340

0008

商文通

逓商局

公第 八〇 號

昭和貳年四月廿五日接受

昭和貳年參月廿日

在オデッサ

領事 島田 滋

郵務大臣國務院郵政事務部印

西歐諸國行政事務部管轄同族件

三月三十日交通人民委員部代表者ハ  
ナエ、オデッサ、各鉄道停車場ニ對シ  
ウィナ、柏林、及び巴里各駅ニ到ル  
同族ノ發着ノ開始ニ至ル迄ナキ旨ノ  
命令アリ

在オデッサ日本帝國領事館

(分類 郵政 第九四一)

西歐戰亂同族件  
三月三十日交通人民委員部代表者ハ  
ナエ、オデッサ、各鉄道停車場ニ對シ  
ウィナ、柏林、及び巴里各駅ニ到ル  
同族ノ發着ノ開始ニ至ル迄ナキ旨ノ  
命令アリ

和信係以て  
田中大使

在オデッサ日本帝國領事館

F-0340

0009

25

5.267

11	祭日が多イニトニソル	現象アリ。然レハ左鉄道
物輸送高が異常ノ多ク	運ミテ居ルコト及ニ月中ニ	
減低ヲ来メシテ居ルカ	如キ事態ハニ月中ニハ	
末ニ比シ唯ニ増大ヲ見	カシテハ不踏水ニ%	
ニ中ニ於ケル一晝夜平均	輸送高ノ減	
シテ大要九ノ如キ報告	あり。由	
ノ席上昨年ニ同ヤノ南部	地方委員会於ケル會談	
運輸調整ヲ目的トセ	ル南部地方委員会於ケル會談	
ニ月ニ於ケルカ	ラケテ南部鉄道	
貨物取扱状況		

47

海外商報

濟載報商外海  
昭和2年8月7日  
第 152 號



13

在オデサ日本領事館

通商局

公第 一四三 號

昭和貳年五月卅日 接受

有附屬物

昭和貳年四月卅日

在オデサ  
領事 島田 滋  
印

外務大臣田代文平一啟

本年三月廿九日、三月三十日、南部鉄道、貨物取扱状況、調査報告あり。

七月一日、同如前報告通り、調査報告あり。





26

公第 一六六 號

昭和貳年七月廿五日

一 昭和貳年八月壹日 接受

在滿洲里

領事 田中文一郎

外務大臣男爵 田中義一 殿

通商局

駅米局

F19.3.4-1  
57+77

西伯利鐵道ニ於ケル特殊乗客ニ對  
 スル特別便宜供與ノ實狀ニ関スル件  
 當地ヨリ莫斯科ニ至ル露國鐵道列車ニ於  
 テクワレ又ハ車輛留保方ニ関シ本局ヨリ在本邦  
 ソソエト大使館ニ交渉シ其承諾ヲ得テ當地

在滿洲里日本領事館

迄旅行シ來リ當地露國鐵道當局カ何等訓  
 令ニ接シ居ラサル為所是ノ便宜ヲ供與セラレサル  
 ノミナラス却テ坐席取付方ニ関シ不便ヲ被ルモノ  
 アリ曩ニ應田公使及在獨大使館吉澤書記官  
 ノ如キ孰レモ在東京ソソエト大使館ニ手續濟ナ  
 リシ由ナルニ不拘當地ソソエト當局カ何等指令ヲ  
 受ケ居ラザリシ為メ乗車ニ際シ却テ普通一般  
 乗客ヨリ多クノ不便ヲ被リタル例アリ又今般  
 中村代議士ノ組織セル北歐學生觀光團ニ對ス  
 ル特別車提供方ニ関シテモ其指令カ七月二十四  
 日即チ一行ノ當地通過後三日ヲ經テ始メテ列  
 達シ同團ハ在東京ソソエト大使館ノ約シタル  
 特典ヲ受クル能ハザリシ次第ナルニ付右實狀

在滿洲里日本領事館

F-0340

00:12

御参考迄ニ報告申進ス

在滿洲里日本領事館

公第 五九八 號

昭和貳年三月廿壹日

歐米局

第一課

附屬書

昭和貳年三月廿九日發

附屬書

在オデツサ

領事島田 滋



外務大臣野田中義一殿

十一月廿一日ノキイニ聯邦各鉄道運輸  
改善ノ案ニ報告ノ件

首題ノ件ニ関スル別紙報告書一通並ニ提書ニ御閱覽  
相成度

在オデツサ日本帝國領事館

F-0340

0013



677.27

現在ノキエフノ取違物ハ甚々古ク規模極ナクハシテ既ニ戦前帝政府ノ交通者ニ於テシテト技師ノ案ニ

報告ノ件

キエフノ取新築計画ニ関シ

外務大臣男節田中義一殿

在オデッサ  
領事島田滋

昭和三十四年一月拾七日

公第 第一號

在オデッサ日本帝國領事館

昭和三十四年一月拾四日 接受

ノコトナリ イニ月中ハ水候順調ニシテ輸送ノ  
困難ヲ生セサル限リ 九〇〇車乃至一〇〇〇車  
ノ輸送能力ヲ發揮シ得ル予定ナリ

一九三四年 十二月 五日 在オデッサ 島田滋

在外公館

F-0340

0015



依リノ九ノ三年以來新築工事ヲ起シタルカ大戦ノ勃発  
 ニ出會フ後新ニ興クシテ中止セラルルニ多リタルハ  
 築キタルカ現在通人氏本部ニ於テモ早クナリ此ノ英  
 二留英シ昨年五月九カ設計ノ懸案事務ヲ物シ應務者  
 多数ニ達シタルモ満足ナラズ最近再度ノ募  
 集ニ依リ漸ク適当ナルモノヲ得タリ 考案者ハナリ  
 フレ大学ノ教授ニシテゾクライナル建築術ヲ諸州ニ加  
 味シタルヲ以テ特徴トス材料ハ多クシテ鉄筋混土ニ  
 煉瓦ヲ配シ花崗岩ヲ以テ敵ヲ築ニシテ固クシテ  
 米<sup>ハ</sup>ノニ階建運坪ニ五〇〇平方ガーゼジニ及フ  
 工費頗類約急ナニ百萬圓ノ予定ニシテ事倍ノ新ニ限  
 リ今後ニテ年間ニ竣成セシムル筈ナリ 新築屋ハ一  
 九四〇年ニ於ケルナリナレバ配ノ運輸状況ノ標準トセ

在オデツサ日本帝國領事館

ルモノニシテ日ハ一四<sup>〇</sup>列車昇降各一八〇〇〇人ノ  
 旅客ヲ有花ニ得ル設備ヲ物ス管ニテ南部鐵道局ニ於  
 テハ目下起工ヲ急ヤフアリ  
 右既述露回若地ニ於ケル建築工事ノ盛トナレリノ例  
 トシ御参考迄報告ス

在オデツサ日本帝國領事館

F-0340

0016

13

通商局

第二課

昭和

昭和參年四月貳日 接受

公第 八九 號

昭和參年參月八日

山口

在オデッサ

領事島田 滋

在オデッサ  
領事島田 滋

外務大臣 島田中義一 殿

歐米高等第一課

公信寫送附ノ件

本官范田中大使宛在記公信字一急御參考送附ノ

昭和參年三月廿日附

莫斯科ノテモソ間直行列車回数変更ノ件

在オデッサ日本帝國領事館

621.77

公第 一 號

昭和參年參月五日

在オデッサ

領事島田 滋

在ソノイト 聯邦

特命全權大使 田中 邦吉 殿

莫斯科ノテモソ間直行列車回

回数変更ノ因スル件

オデッサ由莫斯科、オデッサ間直行列車ハ  
從來毎日兩地ノ間ニシテカ本月六日以來之ヲ  
更シテ一週四回トシ在記、右兩地ノ間ニ

在オデッサ日本帝國領事館

F-0340

00:17

フトトイリタリ
莫斯科発日
火曜日 (オデッサ着 木曜日)
木曜日 ( " " 土 " )
金曜日 ( " " 日 " )
日曜日 ( " " 火 " )
オデッサ発日
火曜日 (莫斯科着 木曜日)
木曜日 ( " " 土 " )
土曜日 ( " " 日 " )
日曜日 ( " " 火 " )
尚右莫斯科間直行列車無キ日即チ月水金ノ
日ハオデッサハハリスコフ間ノ列車アルヲ此チ

在オデッサ日本帝國領事館

オデッサヨリ莫斯科ニ赴カントスルモノハ本列
車ヲ利用スルコトヲ得可シ右列車ハ前記
三回午前八時ニオデッサヲ発シ翌朝七時三十分
ニハリスコフニ着ク併シテ二時間ヲ待合シテハリス
コフニ莫斯科間列車ニ連絡翌日午前五時ニ莫斯科
料着ス可シ
右御参考迄ニ報告ス

在オデッサ日本帝國領事館

F-0340

30

歐米局

第一課

昭和三年六月拾五日 接受

情 3.6.13

通商局

昭和三十二年六月七日

在滿洲里

領事 田中文一

郎

情報部

外務大臣男爵 田中 義一 殿

西伯利經由歐洲行旅客列車座席ニ關スル件

本邦ヨリ西伯利鐵道ニ依リ歐洲方面行旅客ニシテ本邦ニ於テ座席豫約方ニ關シ二週間以前ヨリ申込ヲ爲シ置カサレハ容易ニ之ヲ得ル能ハス大イニ不都合ヲ感スル由聞キ及ヒ居ル處當地ニ於ケル實情ヲ觀ルニ西伯利鐵道列車ニハ各等共空席多ク滿員ノ事殆ント無キカ右ハ邦人旅客ノ殆ト凡テカ我「ツーリスト」ビュロー」ヲ經テ座席豫約ヲ爲ス

Japan Transit Bureau  
山内氏ニテ電報  
好キ者ヲ豫約  
ニ付テハ  
尚能運着ヘモ  
送附  
右取米一俵  
相俵  
情ニ

1671a.77

在滿洲里日本領事館

處同所ハ萬國寢台會社ト連絡アル關係上一部ノ座席ヲ割當ラレ居ル  
過キニ其他ニ對シテハ東支鐵道商業部ニ於テ座席券ヲ發賣シ居リ而モ  
其數多キニ依ルニ

而シテ東京ヨリ當地迄ハ座席ヲ豫約シ置カスシテ毎日來ルヲ得ヘク當  
地ニ於テハ西方露國「ラトビヤ」國境驛「ストルプツエ」迄ノ切符及  
座席券ハ何時ニテモ入手シ得ヘシ但シ當地ニテハ「ストルプツエ」以  
西ノ歐洲行連絡切符及座席券ノ發賣ヲ爲ササルカ故ニ右所  
哈爾濱東支商業部等ニ就キ之カ準備ヲ爲シ得ヘシ  
右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先 在哈爾濱總領事

在滿洲里日本領事館

F-0340

00:19

雜案

671a.77

歐米局長

文書課發送	昭和參年六月廿一日發送済	淨書	正校(原稿)	附屬書	通
主 管	情報部長 小村	主任	第二課長 起草 藤島	年	六月十九日
機密	第 半信	號	大正	昭和參年六月廿一日附屬書	附屬書
受信	(東京駅構内)	シヤパン・ツーストビエロー	申中	情報部	
人名					
件名	西伯利鉄道旅客座席ニ采スル件	名	込	綴	
<p>梅啓陽者今般在滿洲里田中領事ヨリ西比利          亞經由歐沙行旅客 附屬書 列車座席ニ采スル別          紙字一週リ報告有之ハニ付右行年以冬ニ考迄茲</p>					

別紙 (甲號用紙)

87

外務省

雜案

671a.77

歐米局長

要寫志部 (但附屬書)

文書課發送	昭和參年六月廿一日發送済	淨書	正校(原稿)	附屬書	通
主 管	情報部長 小村	主任	第二課長 起草 藤島	年	六月十九日
機密	第 半信	號	大正	昭和參年六月廿一日附屬書	附屬書
受信	(東京駅構内)	シヤパン・ツーストビエロー	申中	情報部	
人名					
件名	西伯利經由歐沙行旅客列車座席ニ采スル件	名	込	綴	
<p>本件ニ采シ今般在滿洲里田中領事ヨリ別紙          字一週リ報告有之ハニ付右以冬ニ考迄茲ニ送付ス          尚「シヤパン・ツーストビエロー」ヘモ當方ヨリ右通知書ニ付茲ニ申付          別紙田中領事ヨリ報告有之ハニ付右字一週リ報告有之ハニ付右          別紙田中領事ヨリ報告有之ハニ付右</p>					

別紙 (甲號用紙)

88

外務省

F-0340

0020



及以送付候 教具

(別添田中總領事館第105号軍用(赤)紙) 附ノ2ト但シ紙類ヨリ者畧12ト

(乙) 號用紙 (國務)

外務省

外務大臣男爵田中義一殿 (赤) 梓紙

公第一〇五號

昭和三年六月七日

在滿洲里 領事田中文一郎

外務大臣男爵田中義一殿

西伯利經由歐洲行旅客列車座席ニ關スル件

本邦ヨリ西伯利鐵道ニ依リ歐洲方面行旅客ニシテ本邦ニ於テ座席豫約方ニ關シ一二週間前ヨリ申込ヲ爲シ置カサレハ容易ニ之ヲ得ル能ハス大イニ不都合ヲ感スル由聞キ及ヒ居ル處當地ニ於ケル實情ヲ觀ルニ西伯利鐵道列車ニハ各等共空席多ク滿員ノ事殆ント無キカ右ハ邦人旅客ノ殆ト凡テカ我「ツ」リスト、ビュロー」ヲ經テ座席豫約ヲ爲ス處同所ハ萬國寢台會社ト連絡アル關係上一部ノ座席ヲ割當ラ

外務省

F-0340

0021

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp

6712.27 JAPAN TOURIST BUREAU

西比利亞鐵道座席の件  
 御中  
 外務省 情報部  
 在滿洲里田中領事よりの右件に関する御報告に就て御申越  
 の本月二十一日付御書面拜誦仕り御注意有難く御禮申上ます本件  
 に關しては當所に於ては勿論鐵道省御當局に於ても種々御配慮爲  
 被下居ります今後共御注意の點は充分徹底する様努力致します御  
 承知の通り當方直接關係者たる萬國寢臺車會社は極限せられたる  
 寢臺割當を有し居るのみでありますので自然當方申込を全部満足  
 せしむる能はざる場合が屢々相生じ旅客に不便を與へ居りますの

外務省 情報部  
 御中

情報部第二課  
 昭和三年六月二十六日

社団法人法團  
 法入シヤンジンズニエニ  
 幹事  
 有久 豊一助  
 (昭和三年六月二十六日)

ローユビ・ドスリーツ・ンバヤシ 人法團社  
 (八六〇三 一〇八 内ノ丸詰) 内驛京東

レ居ルモ其他ニ對シテハ東支鐵道商業部ニ於テ座席券ヲ發賣シ居リ  
 而モ其數多キニ依ル結果ナリ  
 尙東京ヨリ當地迄ハ座席ヲ豫約シ置カスシテ毎日來ルヲ得ヘク當地  
 ニ於テハ西方露國「ラトビヤ」國境驛「ストルブツエ」迄ノ切符及  
 座席券ハ何時ニテモ入手シ得ヘシ但シ當地ニテハ「ストルブツエ」  
 以西ノ歐洲行連絡切符及座席券ノ發賣ヲ爲サルカ故ニ右所要ノモ  
 ノハ哈爾濱東支商業部等ニ就キ之カ準備ヲ爲シ得ヘシ  
 右何等御參考迄報告申進ス

外務省

(赤 梓 紙)

3. 3.

F-0340

0022

133

671A 77

歐米局  
 第一課  
 昭和四年五月十七日  
 左浦潮斯徳  
 總領事代理  
 小柳西生  
 外務大臣 田中義一 殿  
 列車発着時間改正三箇案件  
 往電牙一三三號、及一三八號、以テ不取敢  
 及報告置タル本月十五日ヨリ実施ノ改正汽  
 車発着時間表別紙ノ通達達ス

件名  
 蘇聯邦鉄道買取案件  
 五月廿七日接  
 記

### JAPAN TOURIST BUREAU

て先般開催せられました日滿聯絡會議の際鐵道省に於かれまして  
 東支鐵道と直接取扱方の交渉を致され近々契約成立することにな  
 つて居る様承り居りますので右協定後に於きましては不都合はな  
 くなることと存じます兎も角當分の間旅客に對しては右事情極充  
 分説明致し旅行者の御了解を求め尙便宜の方法を以て御不都合の  
 ない様に致し度いと存じ居ります右不取敢御書面の御禮申上ます  
 と共に今後共何分の御配慮賜はり度御願申上ます

一ローユビ・トスリーツ・ンハヤジ人法團社  
 (八六〇三 一〇八 内ノ丸話電) 内藤京東

F-0340

0023

後  
通商局  
管

134

文書課長 公文書案

文書課發送 昭和四年六月三日 淨書 (甲號用紙)

主 管 歐米局長 任 主 歐米局長 (地事課)

受 信 鐵道省 發 信 鐵道省

人 名 箕原運輸局長 人 名 堀田珍木局長

件 名 西伯利鐵道列車浦潮斯德 綴 込 名

送 付 件 覽 着 時 間 表 送 付 件

本年四月十七日ヨリ實施ノ西伯利鐵道浦潮斯德  
為身覽着時間表在同地ノ稱該事務以理ス  
別紙ノ旨ヲ形合テ右ノ在籍ニ送付ス

公 信 案 五月十七日附在浦潮斯德ヲ履來分一為二号外時間表送付

3 19

六四号	八二号	六二号	二号	六三号	八一号	六老号	老号	列車番号
急行 満州	客貨車	客車	急行	満州 急行	客貨車	普通	急行	種類
				一四三五	一八三〇	一五一〇	〇三〇	浦潮發
								浦潮着
一七三〇	九一五	八五五	七四〇					發着日
月水金	日火木土	月唯降ノ毎日	月唯	日水金	日火木土	月唯降ノ毎日	火曜	

F-0340

0024

28

電信課長

大臣  
次官

亞細亞  
歐米  
通商  
條約  
情報  
人文  
人文  
會計  
會社

寫送先

5/14 27

昭和四年九月三日後發  
本省 九月三日後着  
歐亞

幣原外務大臣  
第二六七號

渡邊總領事

客月拙電第二四七號當地「ストルブツイ」間急行車著時日其ノ後變  
更サレ毎週木曜午前七時四十分著翌々土曜午前零時三十分當地發ノ  
コトトナリアルモ同車乗客ハ未タ極ク少數ニテ從來ノ毎週月曜著發  
ノ分ハ每便殆ト滿員ノ有様ナリ  
露、哈爾濱へ轉電シ哈府「ブラゴエ」へ暗送セリ

外務省

141

公文書案

文書課長

文書課發送

昭和四年九月五日

發送済

淨書

正校(原稿)

(淨書)

(甲號用紙)

主 管 歐米局長

主 第一課長

(起草) 昭和四年九月四日川角

歐一普 六二〇七 號

昭和四年九月五日附

附屬書

通

受信

今井田 鐵道次官

發信

吉田 次官

人名

青木 鐵道次官

人名

件名

浦潮ストルブツイ間急行車  
車ニ關スル件

綴

名

本件ニ關シ今般在浦潮渡邊總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリ  
タルニ付爲御參考右茲ニ送付ス

27/9.27

公文書案

昭和四年九月三日附在

浦潮

館來電 第六七號寫

添付ノト

外務省

5 35

F-0340

0025



電信寫

松平

三島二回

菅原外務大臣

本管 九月三日 鎌着

在浦潮

渡邊總領事

浦潮新後

賽「指第一回七時普通地」「ストルグツイ」間急行車著時日其ノ後變  
 更サレ毎週木曜午前七時四十分著登々土曜午前零時三十分普通地發ノ  
 コトトナリアルモ同車乘客ハ未タ極ク少數ニテ從來ノ毎週月曜著發  
 ノ分ハ毎便殆ト滿員ノ有様ナリ  
 浦潮新後ハ轉電ハ哈府「サラゴ」ハ「浦潮」ニ

F-0340

0026

收

海外經濟事情

~~控紙~~  
~~二枚~~

87/477

157

公文書課長	文書課發送	昭和四年九月六日	發送濟	淨書	正校(原稿)	(甲) 號用紙
	主 通商局長	了	任 主	(起草) 裕和	昭和四年九月六日	附 屬 書
管 主	第二課	第一課	裕和	昭和四年九月六日	附 屬 書	通
受 信	逕信者空崎屋船長	發 信	武富通商	裕和	昭和四年九月六日	附 屬 書
人 名	銚子者久屋田進船長	發 信	武富通商	裕和	昭和四年九月六日	附 屬 書
件 名	浦塩連絡急行車時 割変更ノ件	名 込 級				
本件ニ關シ今般在浦塩渡辺總領事ヨリ別紙寫ノ						
通報書アリタルニ付爲領事者右茲ニ送付ス						
(昭和四年九月三日附在浦塩館來信 第二六七號寫並附屬書其添付ノコト)						

別紙

6 36

F-0340

0027

電信寫

本  
休 1 日 休  
六 二 日 休

昭和 4 一三四二四 略 浦潮  
本省 九月三日後着 歐

幣原外務大臣  
第二六七號  
渡邊總領事

當地「ストルブツイ」間急行車著時日其ノ後變  
更サレ毎週木曜午前七時四十分著翌々土曜午前零時三十分當地發ノ  
コトトナリアルモ同車乗客ハ未タ極ク少數ニテ從來ノ毎週月曜著發  
ノ分ハ毎便殆ト滿員ノ有様ナリ  
露、哈爾濱へ轉電シ哈府「ブラゴエ」へ暗送セリ

F-0340

0028

車米局

第一課

昭四四年拾月卅日 別紙添附 接受

公第一六號

昭和四年十月十八日

在武市

領事 平塚晴俊



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

武市ボカレワチ間汽車発着時刻変更関係報告件

本件関係は、莫斯村浦潮間汽車発着時刻改正関係  
既、在浦潮波是総領事より報告済、通、左、改正、件、日  
ヲ武市ボカレワチ間汽車発着時刻ニ示、九、九、通、改正、セ、ラ  
レ十月十五日ヨリ之が実施ヲ見、九、九、通、改正、件、日、  
ニ、九、九、通、改正、件、日、

在フラゴエステーション日本領事館

武市ボカレワチ間汽車発着時刻

(ボカレワチ) 列車 (運行)

武市発 一時四十七分 武市着 一時五十五分

ボカレワチ発 午後四時三十分 武市着 午後九時十二分

(十月十五日ヨリ実施)

因、在改正ノ結果、従来武市発ハ午前四時二十分ナリシ  
ヲ午前一時四十七分ニ変更セシ旅行者ニトシ、益々不便  
トナレリ。

在フラゴエステーション日本領事館

F-0340

0029



報 送 商 局 課

6719.77

文書課長	文書課發送	昭利四年舊月七日	發送済	淨書	正(原稿)	(淨書)
主 管	歐米局長	主 任 第 一 課 長	(起草昭和四年十一月五日)	昭利四年七月七日	昭利四年七月七日	附屬書
受 信	鐵道省	久保田運輸局長	堀田歐米局長	堀田	堀田	堀田
人 名	久保田運輸局長	堀田運輸局長	堀田運輸局長	堀田運輸局長	堀田運輸局長	堀田運輸局長
件 名	昭利四年七月七日	昭利四年七月七日	昭利四年七月七日	昭利四年七月七日	昭利四年七月七日	昭利四年七月七日
本件ニ關シ今般在	武市	平塚領事	ヨリ別紙寫ノ通報告アリ			
タルニ付爲御參考右茲ニ送付ス						
公 信 案	昭利四年十月十八日附在	武市	館來電	第二六	號寫並附屬書寫	外 務 省

文書課長

公 信 案

別紙

(甲號用紙)

6 99

◎サ聯邦鐵道時間大改正發表

五月十五日より一齊實施旅客運賃二五%値上げ  
 (モスクワ發) サ聯邦鐵道當局では五月十五日日曜附聯邦鐵道運行  
 時間の大改正を發表し即日實施したが、鐵道旅客運賃も五月一日  
 より二割五分値上げされた結果涌潮。モスクワ間急行寢台券合せて  
 邦貨六百卅七圓となつた。

- 尙ほ改正時間による歐亞國際聯絡列車のウラチオ發着時間左の如  
 し。
- △第一號 每週二回火 木午後六時十分發
  - △第二號 每週二回火 木午後五時五分發

◎勞農代表。經濟的不侵略ニ條約締結を提議  
 リトヴィノフ外相「歐聯案委員會に大見得を切る  
 (ジュネーヴ十八日發) 聯盟理事會と並行して開會中の歐洲聯合案  
 (第三種認可) 七

F-0340

003



通商局

32

歌米局

第一課

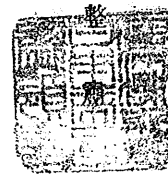
公第 二 五 號

昭和五年一月十九日

在浦潮斯德

總領事代理

緒方



外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

最近ニ於ケル浦潮、北滿間交通連絡狀況ニ關スル件

本月十日烏鐵、東支鐵道間ノ交通復舊ニ關シテハ當時不取敢要報申進置タル處爾來當地通過貨物ノ集散ハ頗繁ヲ極メ東支鐵道諸驛ニ於テハ東部向ケ貨物大量積荷ガ開始セラレ兩鐵道復舊後三日間ニ於ケル當地向ケ荷積狀況ヲ見ルニ十日二百四十貨車、十一日二百四十二貨車、十二日二百四十貨車、十三日二百四十八貨車ニシテ當地方ヨリノ輸出モ亦同様増加シ十五日東支鐵道向ケ三百七十八貨車ノ荷積ヲ見タル趣ナリ又輸入並通過貨物ノ積載ノ當地入港本邦船及歐州ヨリノ船舶モ本月下旬以降相當數ニ達スル豫定ニテ之等貨物ノ運輸ノ迅速圓滑ヲ期スル爲烏鐵ハ「ボグラ

在浦潮日本帝國總領事館

門ノ鐵ノ項3會4-1  
6719.70

ニ「チナヤ」及浦潮間ニ於テ五ヶ所ノ待選驛（ラスシブナヤバード、リボウツイ、タロウオエ、ウオズドワイゼンカ及八十九露里地點）ヲ設ケタリ尙當地哈爾濱間ノ電話ハ未ダ復舊セザルモ電信ハ十六日ヨリ復舊シタリ右報告申進ス

本信寫送付先

在露大使

在ハ府總領事

在哈爾濱總領事

在浦潮日本帝國總領事館

F-0340

0032

後通商局二

第六二號

第一號



昭和五年六月

CII

昭和五年五月二十二日

在プツカウエニシテ

顯

藏



外務大臣男爵幣原喜重郎殿

武市「ボチカリ」間島鐵支線汽車發着時間変更ニ關スル件

本件ニ關シ五月十六日發刊当地機關紙ハ本年五月十五日ヨリ實施シ記汽車發着時間表ヲ發表セリ依テ何等御參考迄茲ニ報告ス

(寫送付先 在ソソ聯邦大使)

(内書)

671A. 47

(内書)

(在哈府總領事 在浦潮總領事)

Large empty rectangular frame with vertical lines, likely a placeholder for a document or image.

F-0340

0033

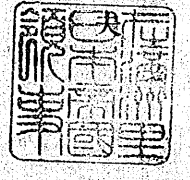
6719.17

從來西伯利亞鐵道旅行者ヨリ列車内ニ於テ盜難頻々タリトノ聲ヲ屢々耳ニシタルモ最近ニ於テハ被害ノ度數稍々減少セリトノ噂アル處

西伯利亞鐵道列車盜難減少説ニ關スル件

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

昭和五年七月十二日 在滿洲里  
領事館事務代理 豊原幸



公第二三九號

歐米局

第一號

昭和五年七月拾九日 接獲

ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	(郵便客車第五号)
ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	(郵便客車第七号)
ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	(貨客車第四〇四号)
ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	(貨客車第四〇三号)
ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	
ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	
ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	
ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	
ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	
ハチカシヤ	午後一時〇分	午後一時〇分	午前十一時十分	午前五時〇分	

備考 ● 發着時間ハ地方時間ニヨル  
郵便客車ハ「モスクワ」滿洲直達通硬席  
客車アリ

F-0340

0034

（一内）

右ニ關シ七月八日同鐵道ニ依ル當地通過者日本エーヤーブレーキ會社員押田安之助ノ語ル處ニ依レハ列車ボ一イハ時々客室ノ見廻ヲナシ例ヘハ時計其他貴重品ノ置場ニ對シ注意ヲ與ヘ且夜間扉ノ旋錠ヲ怠ラサル等乗務員舉テ緊張ノ狀アルハ勞農當局力盜難豫防ニ關シ是等現業員ニ對シ注意ヲ與ヘタルモノト思料セララル云々トノ趣ナリ  
（右何等御參考迄報告ス）

（本信寫送付先）  
（在露大使 奉天 哈爾濱 長春  
ノヴォシヒルスク）

文書課長 公 信 案

別紙

（甲號用紙）

14記12

通商局二

67/A.47

件名	人名	發信	綴名
鐵道局長	鐵道局長	鐵道局長	鐵道局長
鐵道局長	鐵道局長	鐵道局長	鐵道局長
鐵道局長	鐵道局長	鐵道局長	鐵道局長

文書課發送 昭和五年七月拾四日發送濟 淨書 檢査 正校(原稿) 福田 (淨書) 福田

主 任 主 任 主 任 主 任

歐米局長

普通 號 大正 昭和五年七月拾四日 日附 附屬書 通

御參考ノ爲別紙送付ス

昭和五年七月拾四日 附屬書 通

（本信寫送付先）

（在露大使 奉天 哈爾濱 長春  
ノヴォシヒルスク）

公 信 案

外 務 省

F-0340

0035

通商局

外秘第二四四號

昭和五年七月二十一日

警視總監丸山鶴吉

昭和五年七月廿參日 接受

印

印

印

情報部

在支各内務事務官殿

内務大臣 安達 謙藏 殿

外務大臣 幣原 喜重郎 殿

指定 廳 府 縣 長 官 殿

西比利亞鐵道食堂車食料引換券  
發賣ニ関スル件

671.77

ソヴイェト國立インツォリスト會社ハ豫テ當地ソヴイェト

通商代表部ヲ經テ「ジマパン、ツォリスト、ビュロー」ニ對シ標  
記食料引換券發賣委託ニ関シ交渉ヲ遂ケ居タル  
カ最近漸ク之レカ契約成立シタル如ク莫斯科「イ  
ンツォリスト」ヨリ「ジマパン、ツォリスト、ビュロー」ニ通信越  
シタル要領左記ノ通りニ有之

記

在東京

ジマパン、ツォリスト、ビュロー 御中

一九三〇年六月二十五日在莫斯科

國立株式會社インツォリスト

(前略) 近ク本食料引換券發賣ヲ安負施スルニ

F-0340

0036

際シテハ曩ニ通知、通り引換券發賣手数料  
ヲ三步トシ本協定手数料ハ食券記載ノ公稱  
價格外ニ申込旅客ヨリ直接徴收セラレ度食券  
ノ全價格ハ

濤州里―ネゴレロ五驛間三ニ留四〇哥  
浦塩―ネゴレロ五驛間四六留三〇哥

之レヲ當「インツリスト」ニ支拂フ可キモノトス  
旅客ヨリテ使用セラレザリシ食券ニ對スル割戻  
シハ食堂車ノ故障ニ依ル場合ヲ除キ原則トシテ  
割戻ヲ爲ササルモノトス  
食券ノ有効期間ハ通行切符ト同様六十日間

ニシテ汽車旅行中標準獻立表ニ依リ全食料  
ヲ支給セラルヘキモノニ有之

右及申(通)報候

F-0340

0037



通商局

67/A.77

昭和五年八月廿日

發給済

淨書

正(原稿)

(淨書)

昭和五年七月三十日

以有

主 第一課長

昭和五年八月廿日

附屬書

通

文書課長

公 信 案

別紙

1 74

主 歐米局長

受 信 普 通 第 二 四 號

人 名 小 村 拓 務 以 有

件 名 極 東 地 方 新 陸 運 送 其 政

件 名 此 項 之 件

本件ニ關シ今般在

リタルニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

ヨリ別紙寫ノ通報告ア

ハロイナ

山口總領事

昭和五年七月十日附在

館來電機第二二七號寫並附屬書寫

外 務 省

昭和五年七月十日附在

館來電機第二二七號寫並附屬書寫

通商局

67/B.77

昭和五年七月十二日附在

發給済

淨書

正(原稿)

(淨書)

昭和五年七月二十日

以有

主 第一課長

昭和五年八月廿日

附屬書

通

文書課長

公 信 案

別紙

31 16

主 歐米局長

受 信 普 通 第 二 五 一 號

人 名 東 京 野 内 以 有

件 名 西 伯 利 亞 鐵 道 列 車 運 送 其 政

件 名 此 項 之 件

御參考ノ爲別紙送付ス

昭和五年七月十二日附在

館來(往)電機第二二九號寫並附屬書寫

外 務 省

昭和五年七月十二日附在

館來(往)電機第二二九號寫並附屬書寫

F-0340

0038

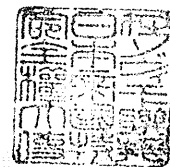
職奉書

公第四七七號

昭和五年十月二十九日

在ソヴィエト聯邦

臨時代理大使 天 羽 英



外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

蘇聯邦鐵道乗車料及貨物運賃値上  
ニ關スル件

當國鐵道當局ハ曩ニ本年八月一日以降鐵道乗車料及貨物運賃ヲ從來ノ  
料金ニ比シ二割五分値上シタルカ十月二十七日ノ一イズヴェスチャ一  
紙官報欄ニ發表セラレタル全月二十六日附聯邦人民委員會議ノ決定ニ  
依レハ當局ハ現行鐵道乗車料及貨物運賃ニ對シ更ニ二割五分ノ値上ヲ

(分類 F1.9.3. <)

斷行スル事トナリ本年十一月一日ヨリ實施スル趣ナリ  
右何等御參考迄報告ス

BII

記録係

昭和五年十月廿六日檢受  
BII

F-0340

0039

(分類 F1.2.3.4)

人事課

發送係

文書課

歌米局  
公第二二〇號  
昭和六年五月十九日  
在「ソヴイエト」聯邦  
特命全權大使 廣田 弘毅

外務大臣男爵 幣原 喜重郎 殿

改正汽車發着時間報告ノ件  
當地及滿洲里、浦潮、「ストップツイ」間ノ汽車發着時間今回改正セラ  
レ本月十五日ヨリ實施シツアルニ付別紙ノ通報告ス

本信寫送付先 英、佛、獨、波蘭、埃、ラトビヤ、芬蘭各大使



歌米局

第一課

昭和六年六月一日 接受

別紙添附

BII

(分類 F1.2.3.4)

検査  
送書二部  
別紙

會計課

此支出

文書課長  
公 信 案  
昭和五年五月廿一日  
主 任 第一課長 (起章 昭和五年十月廿七日)  
主 歐米局長  
任 第一課長  
歐一普通 第三六六號 略 昭和五年五月廿一日 附  
附 屬 書 通  
受 信 人 名 青木 鉄道 次 友  
發 信 人 名 吉田 次 友  
件 名 貨物運賃値上ニ由ルニ付  
本件ニ關シ今般在露天羽代理大使ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス  
昭和五年十月廿九日附在る大使 館來往機第 四七七 號寫並附屬書寫  
公 信 案 外 務 省

文書課長

公 信 案

文書課發送

昭和五年五月廿一日

淨書

正校(原稿)

淨書

別紙

計會  
5.11.27  
付發

用紙

附屬書

通

1 106

F-0340

0040

改正汽車發着時間表（一九三一年五月十五日實施）

莫斯科	發	滿洲里行	火、木、金、日	午後五時五五分
	着	ヨリ	月、水、金、日	四時二七分
	發	滿洲行	水、土	五時五五分
	着	ヨリ	木、土	四時二七分
	發	ストップイ行	毎日	四時三〇分
	着	ヨリ		午前十時二五分

備考 東支ノ改正時間未タ不明ナルモ從來ノ連絡時間ニ比シ  
發着共約二十分早クナル由

改正汽車發着時間表（一九三一年五月十五日實施）

莫斯科	發	滿洲里行	火、木、金、日	午後五時五五分
	着	ヨリ	月、水、金、日	四時二七分
	發	滿洲行	水、土	五時五五分
	着	ヨリ	木、土	四時二七分
	發	ストップイ行	毎日	四時三〇分
	着	ヨリ		午前十時二五分

備考 東支ノ改正時間未タ不明ナルモ從來ノ連絡時間ニ比シ  
發着共約二十分早クナル由

F-0340

0041

文書課  
 普通第 〇八六 號  
 昭和七年十一月五日

在浦潮斯德  
 總領事山口 爲 太郎

外務大臣伯爵 内 田 康 殿

「ストルブツエ」浦濤間特急列車増發方ニ關シテノ  
 滿洲里學變ニ依ル東支鐵道西部線ノ不通ハ既ニ久シキニ亘ル所「ソ  
 一當局ニ於テハ右當分開通ノ見込立タスト認メ従前「ストルブツエ  
 一滿洲里間ニ運轉シ居リタル特別急行列車「リュクス」ヲ「ストル  
 ブツエ」浦濤間ニ配車スルニ至ルヘントノ噂ハ豫テヨリアリタル所

在浦潮日本總領事館

文書課長

文書課發送 昭和六年六月六日 發送済

主 歐米局長 任第一課長 (起奉昭和六年六月六日)

歐一 普通第一 號 昭和六年六月六日 附

受 信 人名 青木 欽道 次官

發 信 人名 永井 外務 次官

件 名 莫斯科 滿洲里 浦潮 間 汽車 發着 時間 關 係 件

本件ニ關シ今般在「ソヴィエト」聯邦廣田大使ヨリ別紙寫ノ通報告ア  
 リタルニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

(昭和六年五月十九日附在「聯邦」大使 館來電 第二二〇 號寫並附屬書寫)

昭 和 七 年 十 一 月 廿 五 日 接 受

3.2 6 27

F-0340

0042

部  
 (分類 F19.3.4)

26

文書課發送	昭和七年十二月廿五日發送濟	淨書	正校(原稿)	(淨書)
主 管 歐米局長	任 主 任 第一課	(起草略租七年十月二十日)		
歐米局長	鐵道省運輸局長	發信	政米局長事務所	附屬書 通
人名 ジャパンツリストビュロー	人名 政米局長一課	綴	込蘇聯和鐵道界後雜件	
件名 ストルツエレ神崎同特急列車	塔花方ニ因之件	名		
本件ニ關シ今般在浦潮新徳山口總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ				
付爲御參考右茲ニ送付ス				
(昭和七年十一月五日附在浦潮新徳山口總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ)				
公 信 案				
外 務 省				

文書課長

公 信 案

別紙

(甲號用紙)

24 48

右ハ昨四日ヲ初回トシ毎金曜日午後七時八分浦潮發車ノ實現ヲ見ルニ至レリ、  
 因ニ從來滿洲里經由東支鐵道ヲ通過セシ旅客ハ最近悉ク浦潮ヲ經由シ居ル所「ソ」聯邦汽車單賃カ異狀ニ高價ナル爲右ヲ利用スル者ハ特ニ急ヲ要スル者ニ限ラレ居ル關係上且將來增加ラ期待シ待スト豫測シ居ル者多シ  
 右御參考迄報告申進ス  
 本信寫送付先 在「ソ」ウイェト「聯邦臨時代理大使  
 在「ハ」バロフスク「總領事代理

在浦潮日本總領事館

F-0340

0043



借報部 考

會社課長

鉄

後

1919.3.4

歐米局長  
公第九一號

昭和八年三月八日

在「ソヴェイエト」聯邦

特命全權大使 太田 爲

外務大臣伯爵 内田 康哉 殿

外國行汽車切符發賣ニ關スル件

當地「イントウーリスト」(外國旅行局)カ客年來外國行汽車切符ハ外國貨幣ニテ販賣スルノ建前ヲ執ルコトトナリタルコトニ付テハ客年十一月電報ヲ以テ報告致置タル通りナルカ「イントウーリスト」ノ取扱區々ニ分レ實際上ニ於テハ切符ノ外貨ニヨル販賣ハ其ノ通り勵行セラレ居ラサリシ處最近「イントウーリスト」ハ

在ソヴェイエト聯邦日本大使館

昭和八年三月廿九日接受

新聞紙上ニ本年二月十日以後外國行汽車汽船切符ハ外國貨幣ノミニテ販賣スル旨公告スル處アリタリ

右ニ關シ二月九日附當地外交團首席獨逸大使ヨリ別添回章ヲ以テ外務部儀禮部長ヨリ左ノ通報アリタル旨申越セリ

「莫斯科ニ在ル外國公館ノ館員及用人ハ從來通り「ソ」聯内タルト國外行タルトニ拘ラス露貨ヲ以テ切符ヲ購入シ得

ニ但シ右ニ依ル外國行切符行先ハ「ソ」聯交通部ト諸外國鐵道當局トノ間ニ存スル協定中ニ定メラレ居ル終點驛迄ニ限ル

ニ切符購入ニ際シテハ要求書ニ外務部儀禮部ノ裏書ヲ得タル後「ワゴンリー」事務所ヨリ切符ヲ入手アリタシ

四「ソ」聯内各地ニ在ル外國領事館ニ對シテモ同様ノ取扱ヲ爲ス可キ旨各地外務部代表者ニ訓令セリ

尙右第二項露貨ニテ通シ切符ヲ購入シ得ル外國終點驛ニ關シ當館ニ於テ外務部ニ就キ確メタル處右ハ羅馬、維納、伯林、「プラーグ」、「ワルソー」、「リガ」、「タリン」、「カウナス」(「

在ソヴェイエト聯邦日本大使館

F-0340

0044

コブノール、ヘルシングフォールス、東京、哈爾濱ノ諸地ニシ  
テ、東京ニ關シテハ浦潮經由タルト滿洲經由タルトヲ問ハス當地  
ヨリ露貨ニテ通シ切符ヲ發賣スル趣ナリ  
右報告ス

本信寫送付先 管下各總領事、領事

在ソヴェエト聯邦日本大使館

F-0340

0045

En sa qualité de Doyen du Corps Diplomatique et se référant à sa circulaire en date du 11 Novembre 1932, l'Ambassadeur d'Allemagne a l'honneur de faire connaître à MM. ses collègues les renseignements suivants qui lui ont été fournis par le Directeur du Protocole du Commissariat du Peuple aux Affaires Etrangères au sujet de l'annonce publiée par l'Agence Intourist dans les Izvestia du 1<sup>o</sup> Février dernier.

Les membres, fonctionnaires et employés des Missions Diplomatiques accréditées à Moscou jouiront, comme auparavant, du droit d'obtenir des billets payables en roubles pour les voyages qu'ils effectueront à l'intérieur même des frontières de l'URSS ainsi qu'à destination de l'étranger.

Il ne pourra cependant être délivré de billets directs pour l'étranger qu'à destination des points-terminus prévus par les conventions conclues entre le Commissariat du Peuple des Voies de Communication et les Administrations des Chemins de Fer étrangers. (Cf. l'édition officielle des tarifs publiée par le Commissariat du Peuple des Voies de Communication).

Les demandes de billets faites par les Missions Etrangères seront visées, sur présentation, par le Service du Protocole avant d'être remises au Bureau des Wagon-Lits (Pétrovka 4), où seront délivrés les billets. Le Directeur du Protocole prie les Missions de présenter leurs demandes quelques jours à l'avance afin de pouvoir faire réserver les billets en temps voulu; dans des cas urgents, cependant, le Service du Protocole s'efforcera d'obtenir les billets requis dans le plus bref délai.

M. Florinsky a également fait connaître au Doyen du Corps Diplomatique que les représentants et les agents du Commissariat du Peuple aux Affaires Etrangères ont reçu pour instructions de prêter leur concours dans les mêmes conditions aux Consuls étrangers.

Moscou, le 9 Février 1933.

F-0340

0046

F-1934

普通第一八五號  
昭和八年五月十五日

在浦潮斯德  
總領事 山口 爲 太

外務大臣伯爵 内 出 康 哉 殿

浦潮—莫斯科—「ネゴレロエ」間急行列車増發ニ關スル件  
當地—莫斯科—「ネゴレロエ」間急行列車ノ運行ハ從來一週二回即  
チ毎火、木、午後七時八分當地發ナリシカ本週ヨリ毎火、木、土午  
後六時二十三分當地發ト變更セラレ一週三回トナレリ

右報告ス

在浦潮日本總領事館

歐米局  
昭和八年五月廿五日接受

文書課發送	昭和八年四月六日發送済	淨書	正校(原稿)
主 歐米局長	任 第一課	昭和八年四月四日起草	
歐一普通合第	號 昭和昭和海陸四陸四陸	日附	附屬
受 領	鐵道省運輸局長	發 信 人 名	歐米局長
情 報 部	「シヤパン、ツリースト、ビエロ、山、主事」	記 録 件 名	歐米局第一課長
件 名	外國行汽車切符發賣ニ關スル件		
本件ニ關シ今般在「ソ聯邦」大使館ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ 付爲御參考右茲ニ送付ス	本信寫送付先 鐵道省運輸局長「ツリースト、ビエロ、山、主事」 (昭和八年三月八日附在「ソ聯邦」大使館來信 普通第九一號寫並附屬書事)		
公 信 案			
外 務 省			



F-0340

0047

本信寫送付先  
 在「ソウヴェイト」聯邦大使  
 在「ハバロフスク」總領事代理  
 在「ノウオシビルスク」領事代理

在浦潮日本總領事館

歐米局

公第七七號  
 昭和八年五月十五日

在武市  
 領事代理 豊原 幸



外務大臣伯爵 内 田 康 哉 殿

鐵道旅客ニ對スル切符發賣制限及其他ニ關スル件

最近當地方一帶ニ「チブス」蔓延シ死亡者モ相當多數アル由及聞  
 居リタル處右ニ關聯シテカ本月十二日附當市機關紙ハ同日ヨリ當  
 市發東部並ニ西部ニ向フ鐵道旅客ニ對シ衛生検査ヲ行ヒタル旨ノ  
 醫師ノ證明書ヲ有スルモノニ非サレハ汽車切符ヲ發賣セサル旨當  
 市驛長ノ名前ヲ以テ廣告シ居リタリ

在プラゴウエヌチエンスク日本領事館

昭和八年六月五日 接獲

F-0340

0048

要

部

F-1934

公 信 案

外 務 省

（昭和八年五月十五日附在 浦沙 館來（特）第一八五號寫並附屬書寫）

本信竊送付先 浦沙 館來（特）第一八五號寫並附屬書寫

付爲御奉考右茲ニ送付ス

本件ニ關シ今般在浦沙 館來（特）第一八五號寫並附屬書寫

名 件 浦沙 館來（特）第一八五號寫並附屬書寫

名 人 高久 幹事

名 信 日浅 運輸 局長

名 信 東郷 欧米 局長

名 信 西政 米 局長

名 信 蘇聯 郵 局長

歐一普通 第一八〇四號 昭和 八年五月廿七日 附屬

主 歐米 局長 任 第一課

文書課 發送 昭和八年五月廿九日發送済

文書課長 富井

淨書 原 正校（原稿）

昭和八年五月二十日起草

別紙

在プラゴウエヌチエンスク日本領事館

尙右ハ「アムール」航行汽船ノ乗客ニモ行キ居ル由ナリ  
右報告申進ス  
本信送付先  
哈爾濱・哈府各總領事館

27 68

F-0340

0049



手  
免付  
蘇係  
費係  
部  
F. 1. 9. 3. 4

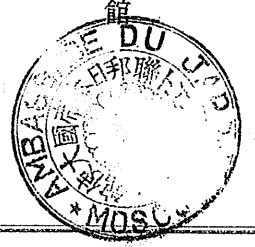
公 文 書 局  
雜 通 第 三 二 九 號  
昭 和 八 年 十 一 月 二 十 三 日

在「ソヴィエト」聯邦  
日 本 大 使 館

外 務 省  
歐 米 局 第 一 課 御 中

「ソ」聯邦鐵道時間表送附ノ件  
蘇ニ齋藤中佐ヨリ當國鐵道時間表送附方依頼アリタル處今般同改正  
時間表貳部入ノ手別便ニテ送附致セルニ付右同氏ニ御轉交相成度シ

在ソヴィエト聯邦日本大使館



昭和八年三月拾八日授受  
有附屬物

文書課長 (富井)

文書課發送 昭和八年六月九日發送濟

主 歐米局長 主 第一課

歐一普通密合第一九九七號 昭和八年六月九日附 附屬

受 鐵道省 日棧運輸局長  
信 陸軍省 山岡軍務局長  
人 西軍省 寺島軍務局長

名 件 錄 記  
蘇聯邦鐵道保狀件

名 人 信 發  
外務省東部歐米局長

本件ニ關シ今般在武部領事代理 ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ  
付爲御參考右茲ニ送付ス

本信寫送付先 鐵道省運輸局長 陸軍省西軍省軍務局長  
(昭和八年五月五日附在武部領事館來電) 第七號寫並附屬書寫

公 文 書 局  
外 務 省

9 (記) 4

F-0340

0050

1930年4月14日

後、  
陸、  
鐵、  
ワリストビエ



公本局  
第四一號

昭和九年四月十四日

在武市

領事代理 下村 未 郎



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

極東ニ於ケル鐵道乗客運行強化ニ關スル  
新聞記事譯報ノ件

首題ノ件ニ關スル本月十四日發刊當市機關紙「アムトールスカヤ」  
「ブラウグ」記事左記ノ通何等御參考迄譯報申進ス  
記

交通人民委員部ニ於テ開催ノ全鐵道ノ乗客交通指導者會議ハ來ル

在ブラゴウエスチンクス日本領事館

昭和九年五月拾六日

524

(分類 F. 9. 3. 4 )

(票 合 照)

政一普令第四三三號

昭和八年十月二十一日

記録件名

發信者 政米局長

受信者 鐵道省運輸局長  
シヤハントウリストビエ

件 名 西伯刺鐵道改亞聯絡旅客運賃並  
列車發着時間改正ニ係ル件

原書ハF. 9. 0. 2 改亞聯絡並降列車案件ニ在リ

F-0340

005:

五三二

調  
査  
課

公 信 案	本備速付先 (昭和九年四月十四日附在 在 普通機第一四一號寫單附屬書寫)	本件ニ關シ今般在 付爲御參考右茲ニ送付ス	件名 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	受 鐵道省日淺迄轉る長 陸軍省永田軍務局長 外務省新藤外務大臣 高久「ジャパン・プレス」エディター	信 陸軍省永田軍務局長	人 外務省新藤外務大臣	名 高久「ジャパン・プレス」エディター	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	名人信發 東郷 歐米局長	主 歐米局長 任 第一課	主 昭和九年五月廿一日發送濟 昭和九年五月廿一日附屬	文書課發送 昭和九年五月廿一日發送濟	淨書 正校(原稿) (淨書)
				件名 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件	件名録記 櫻東ニ於テハ鐵道未究運化ニ関ル件

文書課長

別紙

別紙

四月十日終了セリ右會議ハ來ル五月十五日ヨリ新々ナル特急、急行及乗客列車ノ運轉ヲ計畫セリ即チ目下一週二回發車シツ、アル「ニエガレ」ハ浦潮間ノ特急ハ五月十五日ヨリ一週三回發車スヘク又「ニエガレ」ハ哈府間ニハ一週一回補助特急列車週行スルコト、ナルヘク尙又莫斯科「イルク」間ニモ同様一週一回特急列車復興スヘク斯塔テ五月十五日ヨリハ莫斯科「極東間」ニハ毎日特急列車發車スルコト、ナリ莫斯科「イルク」間ノ乗客列車三三三四號ノ「ユース」ハ浦潮迄延長セラル(鬼雇員譯)

在ブラゴウエスチエクス日本領事館

F-0340

0052

寫送先

亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計 文書 國會 文書 調查

大臣 次官

電信課長

當國內汽車賃ハ御承知ノ通り新ニ外國ヨリ入蘇スル者乃至通過旅行ノ場合總テ外貨建ニテ徵收セラレ居リ從テ帝國公館員ノ蘇聯内各地赴任又ハ通過ニ際シテモ右ノ適用ヲ受ケ居ル次第ナルカ從來ハ往々當地經由輿地ニ向フ者ニ對シ特ニ當館交渉ノ結果當地ヨリ目的地迄ノ切符、座席券等ヲ紙幣留ヲ以テ購入ノ便法ヲ講シタルコトアリシモ最近前記規定ノ適用嚴格トナリ右便法ハ絕對不可能トナリ現ニ蘇聯邦内在勤中ノ者以外ハ一般旅客同様一律ニ外貨拂ヲ要スルニ付寧

廣田外務大臣 第九八號

昭和9 一三三三七 7.4

浦潮 三日後發 本省 七月三日後着

渡邊總領事

歐

外務省

寫送先

大臣 次官 電信課長 亞細亞 歐米 通商 條約 情報 文化 人事 會計 文書

電信課長

廣田外務大臣

昭和9 一一二〇七 6. 略 廣田外務大臣 第八一號

浦潮斯德 三日後發 歐一 本省 六月三日後着

渡邊總領事

浦潮斯德、莫斯科間急行車ハ御承知ノ通り從來西行每週火、土曜ノ兩日晚六時廿三分浦潮斯德發、東行同兩曜日朝五時五十二分浦潮斯德着ノ二回トナリアル處本夏季中ハ右ノ外毎木曜當地同刻着發ノ一回ヲ増シ每週三回トナリ其ノ初回當地發列車ハ五月卅一日晚莫斯科ニ向ヒタリ御參考迄 露、「ノヴォ」へ轉電シ哈府、武市へ暗送セリ

外務省

記錄件名 蘇聯邦鐵道乘券留件

F-0340

0053

ロ本邦ニ於テ目的地迄ノ通シ切符類ヲ購入然ルヘシ右今後ノ當國旅行本省及關係省員等ニ對シ漏無ク豫メ御注意相成様致度シ尙貴電第九五號ノ「クリエール」ヘモ右可然ルヘク御傳ヘ請フ  
 蘇、哈府、武市、「ノヴォ」ヘ暗送セリ

外務省

歐亞局

公第八七號

昭和九年七月九日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿

會計課

收支出本表

執務本表トシテ鐵道時刻表送付ノ件

「ソウイェト」聯邦鐵道・汽船夏期時間表（一九三四年版）壹部御

參考迄送付申進ス

件名ヲ蘇聯邦鐵道平原雜件  
 昭和九年八月五日 携渡



在オデッサ日本帝國領事館

F-0340

0054



志蘇那邦鉄道一平信雜件

歌重局

第一號

普通号 二九號

昭和九年一月九日 接受

昭和九年一月三日

在ノガカレヒルムリ

取事代理 小柳雪生



外幣大佐 廣田弘毅殿

為地方鉄道運輸上之旅行事故、班、ワズカエツク  
 在屋上場ニ於テハ貨車利用、無統制旅、回ハル件、  
 本年度ニ於テハ各地通過、旅客列車、至リテ、エクスプレス、通  
 過状態ヨリ概観スルニ、ソノ弊病、中大部ト檢査トテ連絡スル西  
 伯利鉄道、運行状態ニ在般約、漸次改善進歩、斷ク見エ、其  
 、運送ノ状況、如クモ、エクスプレス、何テカ見ル、昨年度ノ運

斷ク時ヨリ降雪期近、期ヨリ旅行ニ於テハ京行列車ニ普通三四時ヨリ、  
 西行列車ニ四五時ヨリ(補給始発列車ニ於テハ)拂、七八時ヨリ以上  
 へ運送セル場合モイリキ)運、ソノ通例トセルガ、本年度同期向ニ於  
 テハ京行列車ニ三時ヨリ、西行列車ニ四時ヨリ、降雪期ニ於テハ、  
 昨年ノ殊、外溢和ル気候条件ニ悪シクハ不測、京行西行両列車  
 共運送七、八時ヨリ(補給始発)列車、時、下時ヨリ以上運、場合モイ  
 リキ)運送シタルガ、本年度ニ於テハ今日迄、所、運送時ヨリ昨年  
 ニ比シ積雪大ニシテ且ツ気候ニ極クモ、京行西行両列車共平均四五  
 時ヨリ(ソノリスニ至ラテハ)留、ト定時乃至、二時ヨリ、運送ヲ見ルニ  
 ニシテ、一九ニ本年度ニ於テハ運送以上、運送スラ、飾、イラカレ、運送  
 ニシテ、時、多大、改善、殊、認、ト、ソ、為、高、運送、至、  
 極、京、ト、繁、富、ト、運送、多大、改善、ト、殊、認、ト、  
 ン、出、カ、ト、極、首、肯、セ、シ、ト、所、タルガ、運行列車數ニ従前運、

F-0340

0055

一列車を留置せしむ。鉄道ハ今。旅客ヲ収容シ得ル爲。一般露  
人ハ勿論ナキ。爲敵日向時。一週向以上空シテ切符持。爲滞在  
スルヲ禁ル。且ツ停車場内依然トシテ無秩序。介環ニシテ。何等  
ノ救済策ニ非スル。カークリス。見ルベキモノ。イカリ同論。旅客ヲ人  
向救ニセザル。實例亦尠カラズ。又貨物輸送。一付テ見ルニ。軍需品  
及軍需品ヲ要スル重工業品。以前ニ比シテ差シタル輸送  
シ。改善進歩。認めルモノナリ。一般商品ノ輸送。反響ナル所。  
モハ。莫斯科。ノジカ。向普通。四ノ日。要シ。時。三。四。月。要  
ムルコトアリ。貨車。抑。爲一般商業。積。同。荷物。積。止。止。現  
場以上ノ日数。並。困難。イン。屋。リ。コトナリ。  
又。地方。若。西部。而。他。利。地方。ニ。於。テ。ル。鐵道。在。線。ニ。就。テ。見。ル。ニ。  
亦。新。線。ノ。如。リ。運。行。内。端。ナ。リ。且。ツ。鐵道。事故。ノ。發生。件。數。ハ。放。射  
ニ。邊。ラ。バ。偏。シ。テ。一。月。ニ。一。七。日。者。地。形。行。ノ。シ。カ。ト。ス。ク。ヤ。シ。ロ。リ。紙

掲載セラレタル記事ニ依ルニ、トラスノ鐵道管理局ハ毎日事故發  
生ノ數ニ對シテハ日ヲテオシテ報シ居リ。而シテ事故ノ至ラズルノ、事  
細、務、田、車、破、綻、的、車、輪、覆、無、軌、踏、違、違、機、突、ニ、テ、ハ、年  
九月ノ事故發生件數ハ四回作、十月ハ四回作、十一月ハ五回作、  
現家ハ増加ノ一途ヲ辿リ居ル有様ナリ。  
ソノ原由向ハ此等事故發生ノ原因ヲ探訪、觀地線、無規則反  
答、若シテ特約規則、破壊ニ帰回スルモノイリト認メテハモ。要スルニ  
技術的ニ正途ニテハ露西人ハ無規則。扱ヤリ。的。強。部。ス。現  
場。見。ル。時。若。人。ト。テ。事。故。發生。件。數。ノ。大。ナル。モ。成。程。ト。首。肯。セ。ラ。ル。  
与。茲。ニ。最近ノ事故ノ二。三。ノ。例。ヲ。挙。ゲ。ル。ト。十月四日。若。ノ。カ。カ。レ。心  
ル。シ。市。ノ。停車場。ニ。於。テ。起。ル。列。車。ノ。衝突。事故。事。件。ノ。如。キ。ハ。列  
車。運。送。中。ノ。ハ。ノ。シ。エ。レ。ガ。己。ノ。豫。備。セ。ル。列。車。ヲ。隔。テ。既。一。停。車  
セ。ル。線。路。ハ。引。入。レ。ン。ト。セ。ル。コ。ト。ニ。由。リ。セル。モノ。ニ。シ。テ。其。ノ。結果。橋。脚。車

F-0340

0056

及乗船せざる様様也。

又、下月八日付九号列車、遅延ナシ、乗入レルハチ終點ガ客ガ  
引下レリ、信号ガ指示シテハ不測、ト云フ、ノ線橋内、侵入シ、カハ  
号列車、正面ニ迫リ、乗下レルガ、カハ一五号列車、遅延ナシ、  
終點ニル格置ニ依リ、客ヲモテ突當リ、急ニ御下ルニ新ナル車倒  
トセバ、斯、如キハ、在リ不測蓋ヨリ生ゼシモノイレガ、カハ一五号  
引下レリ。

鉄道事故叙上、如リ多数ニ以外、更ニ鉄道運行ニ多大ノ  
支障ヲ有スル、ノ線橋内ニ停車セル列車ニ対シテ一脱作業、弛  
緩セルコトニシテ、殊ニ貨物列車ニ於テ顯著ナルモノアリ。

下月二日付、スタリオンスリ業震トシテ、ラジエトスアヤレロリ、紙上  
ニ掲載セルレタル記事ニ依リ、ワグバズ、ノ中心地タルラジエトスリ  
市ニ於テハ、白日ノ下以上、貨車ガ御荷セラレズ、工場ノ広場ニ散

置シテ、而モ此等貨車、半以上、ワグバズ、ノ業、装束  
重大、影響ヲ直接的ニ及ボス、マクシテトグルスリ、鉄軌ヲ積載シ  
テ、帰途、アロロエフスリ炭ヲ積ミ、ワグバズ、ノ帰ル時、積載石運搬  
車ヲリト。

与、最近、スタリオンスリニ在リ、鉄軌荷卸ニ状況ヲ見ルニ、下月  
二日、卸荷セラレザルモノ、儘放置ニ置ケレタル積載石(積)貨車  
数、三三、二日、四八、一日、七五、五輛ニ達セリト。

田崎、積石、卸荷ニ際シテ、他、貨物ト御下ルモノ、趣ヲ異ニシ、  
鶴嘴ニカケ、鉄軌ニ依リ破壊スルヲ要スルモノ、ワグバズ、ノ工場ニ  
積載石、三ノ石ニ存シ、カハ利用ヲ誤リ、カハ卸荷セ、急ヤ御下  
ニ、積載石、積石、卸荷ニ際シ、カハ利用ニ在ラカ、  
ラカ、積載石、積石、卸荷ニ、積載石、積石、卸荷ニ、積載石、積石、  
下見、下月二日、石炭運搬、収容能力ナシ也、カハ不測、

F-0340

0057

權一ノ五五也、石炭、卸荷ヲ請マセタルニミシテ、炭車ニテハ  
 荷卸シガレカ、其ノ儘放置セラレ、斯、如リシテ貨物手廻、停止  
 時由ニ標榜ナシ時ヨリルニ事案ニ於テハ四十四時ヨリ達シカレリ  
 以上述べテ悉クソリシテ、ウラル、ウズベキスタン、イリカ、果シテ、今  
 日付迄、悉クガレリ、警察ナル運送ヲ係存シ、終極ニ至ルニテ、  
 ウラル、秋點ト、ウズベキスタン、石炭ヲ相違ニ有無相違セシ、ソ、  
 邦ノ一重要工業中心地トイハレタルノ大業ニ運送方面ヨリ  
 觀察シ、現況ニ照シテ、多大ノ困難ヲ伴フニ至ラズ、既、  
 敷設状況ヨリ見テ、今後ニ成績、存セト、思フスルヲ得ズ。  
 取上、詳報セル所、依リ、大体若地方敷設運送、無殊修  
 無断制振ノ効、並、ウラル、ウズベキスタン、向運送、  
 一級狀勢ヲ窺知  
 二得ヘリ、何等モ参考直此級報告申出ス。

以上

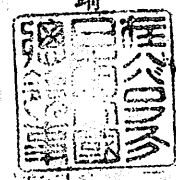
多岐太郎

歐亞局  
 普通公第一六三號

昭和九年十二月七日

在ハバロフスク

總領事 島田正靖  
 外務大臣 廣田弘毅 殿



當地方夏期列車運行表變更ニ關スル件

當地方夏期列車運行時間表ニ關シテハ本年五月二十日附普通第六二  
 號ヲ以テ及報告置キタル次第有之處右夏期時間表ニ依ル運行ハ去ル  
 十月末日ヲ以テ終了十一月一日以降ハ冬期運行時間表實施セラレ浦  
 潮、莫斯科(「ストルブツイ」)間國際急行列車發着回数ハ各一回  
 ヲ減シ每週二回トナリ(即チ浦潮發每週火曜及土曜、浦潮着每週木  
 曜及土曜)又浦潮、莫斯科間郵便旅客列車第四一號及第四二號ノ發

在ハバロフスク日本總領事館

F-0340

0058

要  
寫部

F. 9. 3. 4

公 信 案	本信送付先 在ハバロフスク 電報掛第一 電話掛第一 電話掛第一	本件ニ關シ今般在ハバロフスク 地方列車運行表変更ニ因テ 付爲御參考右茲ニ送付ス	件名 ハバロフスク地方列車運行表変更ニ因テ	受信人 東郷 歐亞局長 在ハバロフスク 日本總領事館	主 歐亞局長 第一課	主 第一課	文書課發送 昭和九年一月拾日 發送済	文書課長 在ハバロフスク 日本總領事館	淨書 (原稿)	正校 (原稿)	淨書 (淨書)
									日附 昭和九年一月拾日	日附 昭和九年一月拾日	日附 昭和九年一月拾日

10 10

着ハ從來毎日ナリシヲ每週四回ニ減シ残り三回ハ「ハバロフスク」  
 莫斯科間ノ發着ニ止ムルコトトナレリ右各列車ノ發着日左ノ通りナ  
 リ

第四一號 浦潮—莫斯科間 浦潮發、月火木土、哈府着、火水金土、  
 第四二號 (莫斯科—浦潮間) 哈府着、金日火木、浦潮着、土月水金  
 第四一號 (哈府—莫斯科間) 哈府發、月木土、  
 第四二號 (莫斯科—哈府間) 哈府着、土月水、  
 因ニ以上各列車ノ發着時間及「ハバロフスク」莫斯科間急行列車ノ  
 發着日時ハ從來通りナリ

本信寫送付先  
 在蘇聯邦臨時代理大使  
 在浦潮總領事

在ハバロフスク日本總領事館

F-0340

0059

送付物  
目録  
10/10/10

F-0340

公第一六號  
昭和十年一月十一日

在武市  
領事代理 下村 未郎

外務大臣 廣田 弘毅 殿

莫斯科「浦潮間」ラヂオ「裝備」  
急行列車運行開始ニ關スル件

本月十一日發刊當地「アムールスカヤ・ブラウダ」紙ノ傳フル所ニ  
依レハ一月七日始メテ莫斯科ヨリ浦潮ニ向ケ第一回ノ「ラヂオ」裝

昭和拾年 壹月廿八日 接受

在ブラゴウエスチエンスク領事館

5/10/10

送付物  
目録  
10/10/10

F-0340

公第一八號  
昭和十年一月九日

在オデッサ  
領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿

鐵道冬期時間表送付ノ件

蘇聯邦鐵道・船舶及其他交通機關一九三四一五年冬期時間表壹部何等御參考迄送付申進ス

在オデッサ日本領事館

送付物  
目録  
10/10/10

歐亞局

第一編

記録係及蘇聯邦鐵道南洋雜件

昭和拾年 壹月四日 接受



F-0340

0060



本信照合票挿入先  
 門類 項目 日 號  
 7 902

11.9.25

公第一六號  
 昭和十年一月十一日  
 在武市  
 領事代理 下村 未郎  
 外務大臣 廣田 弘毅 殿  
 莫斯科―浦潮間ニ「ラヂオ」裝備ノ  
 急行列車運行開始ニ關スル件  
 本月十一日發刊當地「アムールスカヤ・ブラウダ」紙ノ傳フル所ニ  
 月七日始メテ莫斯科ヨリ浦潮ニ向ケ第一回ノ「ラヂオ」裝

在ブラゴウエスチエンスク領事館

昭和拾年壹月廿八日接文

蘇聯各報社刊「鉄道」紙に在り

附屬物別便  
 領事館

11.9.25

公第一八號  
 昭和十年一月九日  
 在オデッサ  
 領事 平田  
 外務大臣 廣田 弘毅 殿  
 鐵道冬期時間表送付ノ件  
 蘇聯邦鐵道・船舶及其他交通機關一九三四―五年冬期時間表壹部何  
 等御參考迄送付申進ス

在オデッサ日本領事館



歐亞局  
 公第一八號  
 昭和十年一月九日  
 在オデッサ  
 領事 平田  
 鐵道冬期時間表送付ノ件  
 蘇聯邦鐵道・船舶及其他交通機關一九三四―五年冬期時間表壹部何  
 等御參考迄送付申進ス

記録付蘇聯邦鐵道圖存雜件  
 昭和十年一月四日 接受  
 附屬物別便

F-0340

006

門/第9風3回4-1)

歐亞局

公第二七號

昭和十年一月十七日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿

「キエフ」ヲ中心トスル列車運轉増加ニ  
關スル件

「ウクライナ」政府機關紙「ピスチ」所報（一九三五年一月十五日）ニ依ルニ聯邦交通部ニ於テハ一九三五年夏期鐵道時間表ヲ編成セルカ内南西鐵道列車運行ニ關シ左ノ改正ヲ加ヘタル由ナリ  
右ハ政府ノ「キエフ」移轉ニ伴ヒ從來ノ「ハリコフ」中心主義ヲ「



在オデッサ日本領事館

昭和拾年貳月拾貳日接受

蘇聯邦鐵道系係雜員

備々急行列車出發セリ急行列車ノ途中ニ於テハ毎日「ラヂオ・ニュース」ヲ始メ莫斯科及哈府ヨリノ音楽及講演ノ放送行ハレン  
二月一日ヨリ莫斯科―浦潮間ニハ若干ノ「ラヂオ」裝備ノ列車運行ヲ開始スルニ至ラン云々

本信寫送付先 在蘇臨時代理大使

在滿大使

在黑河大谷副領事

在ブラゴウエスチエンスク領事館

F-0340

0062

キエフ」ニ變更セルモノト認メラル

一、現在運轉ノ「キエフ」―「ハリコフ」間急行（第一號及第二號）  
一車ノ運轉時間ヲ一時間十五分短縮シ「キエフ」驛發着時間ヲ左  
ノ通り改正ス

舊時間表 キエフ發 一五時三〇分 キエフ着 一五時一〇分  
新時間表 同 一七時四七分 同 一一時四二分

二、左ノ直通列車ノ運轉ヲ開始ス

- (イ) 「キエフ」―「セバストポリ」 急行（第二一號及第二二號  
列車）
- (ロ) 「キエフ」―「キスロウオドスク」 急行（第一五號及第一  
六號列車）
- (ハ) 「キエフ」―「ソーチ」 急行
- (ニ) 「キエラ」―「ドネプロベトロフスク」―「ルガンスク」

在オデッサ日本領事館

三、左ノ區間ニ直通車輛ヲ連結ス

普通（第四九號及第五〇號列車）

- (イ) 「キエフ」―「マリウポリ」
- (ロ) 「キエフ」―「ヘルソン」
- (ハ) 「キエフ」―「スタリノ」

四、「キエフ」ヲ中心トスル左ノ近距離運轉ヲ増加ス

- (イ) 「キエフ」―「ファストフ」（六四軒、南行）
- 現在一日二五列車ヲ三〇列車ニ

- (ロ) 「キエフ」―「テテレフ」（八一軒、西行）九列車ヲ一三列  
車ニ

- (ハ) 「キエフ」―「ネージン」（一三二軒、北行） 三列車増
- (ニ) 「キエフ」―「ヤゴチン」（一〇二軒、東行） 三列車増

在オデッサ日本領事館

F-0340

0063

7.1.9.32.7

右不取敢報告申進ス  
本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

歐亞局

公第六二號

昭和十年二月二十日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿

汽車運行ノ不規則ニ關スル件

汽車運行特ニ貨車運輸ノ不良ナルハ政府當局ヲ初メ黨本部ニ於テモ之ヲ認メ最大ノ努力ヲナシ之カ改善ヲ圖リ居ル次第ナリ  
今卑近ノ一例トシテ旅客及郵便物輸送ニ關シ當地ト莫斯科ヲ聯絡スル幹線及當地ト西歐(主トシテ波蘭、獨逸、佛國)ト聯絡セル一シエベトフカ一線ニ付今日迄ノ結果ヲ見ルニ普通車ハ勿論急行車ニシ

在オデッサ日本領事館

第一總務部  
蘇聯邦鉄道省係附件  
昭和三十年三月九日受



F-0340

0064

テモ發着時間ノ正確ヲ缺クコト極メテ頻繁ナリ殊ニ汽車走行中郵便車ニ故障生シ途中ニテ修繕スルコト不可能ナル場合ハ之ヲ切放シテ汽車ノミ目的地ニ向フ場合少ナカラス之カ爲メ汽車ノ遲着ト郵便車切放シノ二原因ニ依リ郵便物ノ接受甚タシク不規則ニ陥レリ  
過去約一年間ノ當地ヲ中心トスル列車運行經過ヲ見ルニ急行車ノ遲着發及郵便車切放シノ回數漸次増加ノ傾向ヲ示シ居レリ  
右報告ス

本信寫送付先 在蘇大使

在オテッサ日本領事館

歐亞局

第一課

昭和拾年五月六日 接受

D

機密公第九七號

昭和十年四月二十五日

在武市

領事代理 下村 未郎



外務大臣 廣田 弘毅 殿

武市支線ノ列車運行改善ニ關スル件

「ブラゴウエシチエンスク」―「クイブイシエフ」間ニハ朝夕二回郵便列車及貨客混合列車ノ往返アリ「ウスリー」本線ニ聯絡シ居ルモ列車ニハ燈火無ク其ノ間僅ニ一〇九軒ニ過キササルニ列車ノ遲延甚

在ブラゴウエスチエンス日本領事館

F-0340

0065



シク定刻ニ發着シタル事無ク爲ニ旅行者ハ列車待ノ爲「クイブイシ  
エフ」ニ滞在スルノ餘儀無キ彼目ニ至リ不便甚シカリシ處最近停車  
場ハ清掃セラレ列車ニハ電燈ヲ點シ定刻ニ發着シツツアリ殊ニ前線  
郵便列車ニハ「ラデオ」裝備ノ「ワゴーン」ヲ連結シ旅情ヲ慰メ居  
ルカ如キ改善ノ跡見ルヘキモノアリ  
他而「ウスリー」本線ノ列車頓覆數モ三月以來頓ニ激減シ從來日  
ヲ以テ數ヘタル列車ノ遅延モ時間ヲ以テ數フルニ至リタリト云ヘハ  
之亦一大改善ト云フヘク彼是綜合スルニ或ハ新交通人民委員「カガ  
ノ」ウイツチ」ノ指令徹底ノ結果カトモ思考セラルル儘右何等御參  
考迄報告申進ス

本信寫送付先 在蘇聯時代理大使

在ブラゴウエスチェンクス日本領事館

在滿大使

在ブラゴウエスチェンクス日本領事館

F-0340

0066



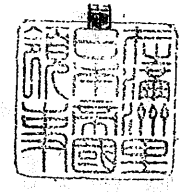
11.9.2.4

本件ニ關シ「ソ」側鐵道當局ニ於テ北鐵接收後西伯利急行列車運行回  
數ヲ從來ニ往復ナリシモノヲ三往復ニ増加セル事ハ四月六日附往信第  
九一號ヲ以テ報告申進メ置キタル處本月十八日當地「ザ」鐵管理局ヨ  
リ十七日附公文ヲ以テ該增加運轉列車ヲ本月十七日ヨリ廢止スル旨通

西伯利急行列車運行變更ニ關スル件

外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

在滿洲里  
領事代理 後 藤 安 國



歐亞局  
公普通第一六六號

昭和十年五月十八日

第一課

昭和拾年五月廿參日接受

件名  
滿洲里鐵道局ヨリ  
送附ノ件

寫  
二部

公文書案	（昭和十年四月二十五日附在內務省館來機第一九七號寫單附屬書寫）	本件ニ關シ今般在武市支線ノ列車運行改善ニ關スル件 付爲御參考右茲ニ送付ス	受信人 陸軍省永田軍務局長 多謀本部國村第二部長	發信人 東郷局長 後藤安國	主 管 歐米局長 第一課	文書課發送昭和拾年五月拾日	淨書 正校（原稿） （淨書）	昭 和 年 月 日 昭 和 年 五 月 拾 日	昭 和 拾 年 五 月 廿 參 日 接 受
------	---------------------------------	---	--------------------------------	---------------------	--------------------	---------------	----------------------	----------------------------	-----------------------

10 6

F-0340

0067

知越シ逆轉回数ハ舊ニ復シ再ヒ二往復トナレリ  
右不取敢報告申進ス

本信寫送付先 在滿大使、哈爾濱、齊々哈爾、海拉爾、綏芬河、  
在露大使、在樺大使、「ノヴォ」と、「ワルソー」

歐亞局

第一課

昭和拾年六月拾日 接受  
別紙添付

B

公普通第一八八號

昭和十年六月一日

在滿洲里  
領事代理 後 藤 安

外務大臣 廣 田 弘 毅 殿



西伯利急行列車發着時間改正ニ關スル件

本件ニ關シ當地「ザ」鐵管理局長ヨリ五月三十一日附公文ヲ以テ  
西伯利亞急行列車當地發着時間ハ六月一日ヨリ別表ノ通改正セラ  
レタル旨通知越セリ但シ運行回数及發着週日ニハ變更ナク從前通  
ナリ

在滿洲里日本領事館

F-0340

0068

因ニ従前ノ當地發着時間ハ發午後零時三十六分着午前九時ナリ  
 右報告申進ス

本信寫送附先 齊々哈爾、海拉爾、綏芬河、ノヴォオレ

在滿州里日本領事館

西比利亞急行列車當地發着時間表(但シ滿洲國時間)

發日	發時間	着日	着時間
○月曜日 木曜日	午後三時七十七分	○木曜日 日曜日	午前六時三十分
同	右	同	右

○印ハ「マンチュリアン、エクスプレス、リユクス」ニテ設備最善

在滿州里日本領事館

F-0340

0069

歐亞局

公普通第一八九號

昭和十年六月三日

在「ソヴィエト」聯邦

臨時代理大使 酒 匂 秀 一



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

西伯利鐵道時間表改正ニ關スル件

六月一日ヨリ列車時間表改正ノ結果西伯利急行當地發着時間左記ノ  
通變更セラレタルニ付御參考迄報告ス

在ソヴィエト聯邦日本大使館

昭和拾年七月廿貳日接受

記

莫斯科發滿洲里行急行

每週木曜（「リュツクス」）及日曜 午後二時二十分發

同 浦潮行急行

每週月曜、水曜、土曜 午後二時二十分發

滿洲里發莫斯科行急行

每週日曜（「リュツクス」）及水曜 午後八時三十分發

浦潮發同

每週月曜、木曜、土曜 午後八時三十分發

莫斯科發「ストルプツイ」行急行（從來通り）

毎日（但シ日曜ハ「リュツクス」） 午後十時四十五分發

「ストルプツイ」發莫斯科行急行（同上）

毎日（但シ木曜ハ「リュツクス」） 午前十一時三十五分發

本信寫送附先 在滿、英、佛、獨各大使、在波蘭、「ラトヴィア」  
各公使、在哈爾濱、奉天、浦潮、哈府各總領事、在「ノヴォ  
シビルスク」、武市、滿洲里各領事、在芬蘭出張員

在ソヴィエト聯邦日本大使館

F-0340

0070

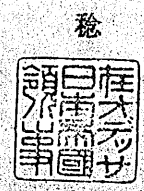
歌亞局  
公第一二七號

昭和十年六月五日

在オデッサ

領事 平田

外務大臣 廣田 弘毅 殿



第一課

名件  
蘇聯政府 鉄道部 事務課 付  
昭和拾年六月廿七日接受

夏期鐵道時間表ニ關スル件

六月一日以降實施ノ夏期鐵道時間表ニ依レハ從來ノ「オデッサ」發  
直通急行列車「モスコウ」行、「ハリコフ」行、「キエフ」行、「レ  
ニングラド」行列車ハ孰レモ廢止セラレ左ノ郵便列車ノミトナレリ

發	時	分	着	時	分
オデッサ(郵便列車、キエフ經由)	二	三	三	五	〇
オデッサ(同上)	一	八	一	〇	〇
オデッサ(普通列車)	一	〇	五	四	〇
キエフ(急行)	一	〇	五	四	〇

在オデッサ日本領事館

「カガノウイチ」鐵道人民委員就任以來最モ成績不良ナル鐵道運輸  
ノ改善ニ努力セルハ周知ノ事實ニシテ今次夏期時間表ノ改正モ夏期  
貨物ノ輻湊期ヲ控ヘ貨物輸送ノ圓滑ヲ圖ル爲メ貨物列車ヲ増加セル  
結果已ムナク旅客列車ヲ減少セルモノト一般ニ觀察セララル  
兎ニ角右改正ニ依リ當地「モスコウ」間直通列車ハ郵便列車(寢台  
車、食堂車ナシ)ノミトナリ著シク不便トナリタルノミナラス其所  
要時間モ從來ノ三十六時間ニ比シ四十三時間餘ニ増加セリ  
新時間表ハ「オデッサ」ト「モスコウ」「キエフ」「レニングラド  
」トノ急行列車廢止ノミニ止マラス他ノ大都市間ノ急行車ニモ影響  
ヲ與ヘタルモノト推セラル、モ未タ時間表ノ發賣ナキ爲メ知ルニ由  
ナシ

右何等御參考迄報告申進ス  
本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

F-0340

0071

1月1日 29日 4-1)

敬呈

普通第 三六號

昭和十年六月十一日

在浦潮斯德

總領事 渡邊 理 惠



外務大臣 廣田 弘毅 殿

浦潮發着當國主要都市間主要客車夏期運行表ノ件

本件ニ關スル別表爲御參考供貴覽

本信寫送付先

- 在「ソヴィエト」聯邦大使
- 在「ハバロフスク」總領事
- 在「ノヴォシビリスク」領事
- 在「ブラゴウエスチエンスク」領事
- 在綏芬河領事代理

在浦潮日本總領事館

記録付  
 浦潮發着當國主要都市間主要客車夏期運行表ノ件  
 昭和拾年六月廿四日接

主要旅客列車時間表

浦潮發		浦潮着	
時間	到達驛	時間	發車驛
午後六時三十分	◎莫斯科	午前五時三十分	◎莫斯科
全七時三十分	△莫斯科	午後二時十分	△莫斯科
全九時三十分	「イルクーツク」	午後六時三十分	「イルクーツク」
午前十時四十分	「ハバロフスク」	午後七時四十五分	「ハバロフスク」
全五時四十分	「ボグラニチナヤ」	午後七時四十五分	「ボグラニチナヤ」
日割	列車番號	日割	列車番號
火、木、土、曜、日	四一	火、木、土、曜、日	四二
每、日	三七	每、日	四四
每、日	九七	每、日	四八
每、日	五七	每、日	五二
日、火、金、曜、日	四五	月、木、土、曜、日	四六

◎印ハ 西歐連絡國際急行車  
△印ハ 郵便車

在浦潮日本總領事館

F-0340

0072



要寫

分類/門/項/目/種

公 信 案	本件ニ關シ今般在滿州里後藤領事代理ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス	件名	西伯利亞急行列車發着時間 改正ニ關スル件
		受人名	新井鐵道省運輸局長 高久旅行協會幹事
外 務 省	本信送付先 鐵道省旅行協會	發信人名	東郷政重局長
		發信人名	蘇聯郵船運下信雜件
主 管		歐一機密台第二九六三號	
主 任		第一課	
文書課發送		昭和十年六月拾八日發送濟書	
正校(原稿)		昭和十年六月十四日起草	
日附		昭和十年六月拾七日	
附屬			

17(記)68

寫送先

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文報 調查 人事 文書 會計 會社 祕書官

大臣 次官

電信課長

昭和10	一五八八四	略	浦潮	七日後發
			本省	十月七日後着
廣田外務大臣				
第九九號				
當地莫斯科間發着列車時間左ノ通り變更アリタリ				
發ノ分				
急行車一午後二時五十四分(火、木、土)				
郵便車一午前一時五十五分(月、水、金、日)				
着ノ分				
急行車一午前六時三十二分(火、木、土)				
郵便車一午後六時二十分(月、水、金、日)				
不取敢				

外務省

蘇聯郵船鐵道省爲雜件

F-0340

0073

記録名簿  
昭和拾年七月廿日 接覽 記

歐亞局

外秘第五四〇號

昭和十年六月二十八日

福井縣知事 近藤駿介



内務大臣後藤文夫殿  
外務大臣廣田弘毅殿  
指定廳府縣長官殿  
在哈内務事務官殿

ソ聯邦鐵道乘車券販賣ノ新規則ニ  
關スル件

六月十日附補藍市発行赤旗紙所載  
ソ聯邦鐵道特ニ莫斯科補藍等ノ連絡驛ニ於ケル乘  
車券購入ハ列車発着回数ノ少ナキコト又乗客ノ多数  
ナルコト更ニ政府役人、黨員、赤軍兵士、ウダルニワク等

種々ノ切符購入優先權者等ノ為メ一般乗客ハ數特尙  
否一日中出札口ニ堵列レテ購入ノ順序ヲ待チ居ル  
不便状態ヲ呈シ居ル現状ニ鑑ミ今回一般乗客ノ切  
符購入ノ困難ヲ緩和スル為優先權アル者ノ制限上切  
符豫約期限ノ短縮ヲナス等ノ新規則ヲ制定シ六月一日ヨ  
リソ聯邦連絡驛ニコレヲ実施スルコト、ナワタ  
右及申(三)報候也

乗車券販賣新規則

新旅客列車特尙割ノ施行ト交通人民委員代理  
ホストニコフノ指令ニ基キ六月一日以後市乗車券  
販賣所(ブロードスカヤ、スタヤチヤ)ハ急行寝台券及  
一般鐵道乗車券ノ六五%ヲ販賣シ残部ハコレヲ驛  
出札口ニテ販賣スル豫約販賣ハ外國トウリスト、  
ビエロ以外一切ノ機關ニコレヲ行ハセヌ、公務出張

F-0340

0074

旅行者用ノ特別列(オノ左レシデ)ハコレヲ廢止スル事  
 塩市乗車券販賣所ハ発車前七日間切符前賣  
 ヲナス  
 列外切符購入權利ハコソ聯邦中央執行委員会ノ  
 証明書持参者同ジク聯邦勲賞所持者及勲賞  
 手帖ニ依リ乗者スル者ノミニ許サル右線各驛ニ於テハ  
 通過乗客モ同様列外ニ切符ヲ發クルコレ等ノ驛ニ  
 於テハ午前各切符ノ販賣ヲ行ス 午後發列車ニ  
 軍隊勤務者ニハ別個ノ切符販賣所ヲ設ケ各  
 驛内ニコレヲ置ク

3  
②

F-0340

0075

6

文書課長

2

別紙

文書課發送 昭和拾年七月廿五日發送済 淨書 正(原稿) (淨書)

主管 歐亞局長 第一課 昭和十年七月二十六日起草

歐一機通合第三二二一號 昭和拾年七月廿九日 日附 附屬

新井 鉄道省運輸局長

高久 日本旅行協会幹事

東郷 欧亞局長

名件録記 以蘇麻邦鉄道系係雜件

件名 西伯利鉄道通時同表改正

本件ニ關シ今般在「」酒匂代理大使ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御参考ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先 鉄道省日本旅行協会 (昭和十年六月三日附在「」館來(往)機第一八九號寫並附屬書憲)

公 信 案 外 務 省

要寫

分類部門類項日云

歐亞局

別紙添附 大島

普通第二四三號

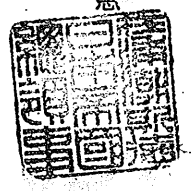
昭和拾年拾月廿五日接受

昭和十年十月十一日

在浦潮斯德

總領事 渡邊 理 惠

外務大臣 廣田 弘毅 殿



浦潮發着主要列車時間變更通知ノ件

當地發着列車時間ノ變更ニ關シテハ囊ニ拙電第九九號ヲ以テ不取敢要報及置キタル處「ソ」側ノ連絡不備等ノ爲本十日ニ至リ漸ク確報ヲ得タルニ付茲ニ別添時間表及送付ス

尙今次改正ノ主要點ハ莫斯科一當地間急行列車及郵便車ノ發着時刻ノ變更ト、郵便車力之迄毎日發着シ居タルヲ、急行列車發着日以外ノ日ニ運行スルコト、セル點ニシテ「ボグラニチナヤ」行ハ現在ノ處從前通り運行セラレ居レリ。

在浦潮日本總領事館

F-0340

0076

本信寫送付先  
 在「ソヴェト」聯邦大使  
 在「ハバロフスク」總領事  
 在滿洲國綏分河領事  
 在「ノヴォシビルスク」領事

在浦潮日本總領事館

浦潮發着主要列車時間表 (昭和十年十月以降)  
 浦潮發ノ分

列車番號	種類	時	刻	曜日	行先
一	急行車	午後二時	五四分	火、木、土	莫斯科
三	郵便車	午前一時	五五分	月、水、金、日	全
四	全	午前七時		毎日	哈府
五	滿洲行	午前五時	四〇分	火、金、日	「ボグラニチナヤ」
二	急行車	午前六時	三二分	火、木、土	莫斯科
四	郵便車	午後六時	二〇分	月、水、金、日	全
五	全	午後三時	四五分	毎日	哈府
六	「ボグ」浦潮	午後七時	四五分	月、木、土	「ボグラニチナヤ」

但シ右四六號列車ハ「グロデコウオ」驛ヨリハ毎日運行シアリ、  
 浦潮着ノ分  
 但シ右四五列車ハ「グロデコフ」迄ハ毎日運行シアリ、

在浦潮日本總領事館

F-0340

0077

門ノ票9現3番4-1

公第二一二號  
昭和十年十一月二十日

在オデッサ  
領事 平田 稔

外務大臣 廣田 弘毅 殿

蘇聯邦ニ於ケル鐵道運輸ノ現状ニ關スル件  
從來蘇聯邦ニ於テ最モ退步セルハ鐵道運輸ナリシヲ以テ本年二月「  
カガノウイチ」交通人民委員任命以來銳意之カ改善ニ努力シツ、ア  
ルカハ周知ノ事實ナリ

鐵道運輸ト稱スルモ差當リ旅客交通ハ後廻シトナシ主力ヲ貨物運送  
特ニ穀物、石炭等ノ重要物資ニ置キタリ之カ爲メ本年五月十五日ヨ  
リ施行セラレタル夏期鐵道時間表ニ依ルニ最モ重要ナル幹線以外ニ  
ハ急行車半急行車ハ勿論寢台車食堂車ヲ廢止シ急行車用強力機關車  
ヲ貨物車ニ轉用セリ

在オデッサ日本領事館

發信用	執務用
主信	
附甲	
附乙	
附丙	
附丁	
備考	

應案 要寫部

文書課長 長

文書課發送 昭和拾年拾月廿日 發送濟

主 歐亞局長 任 第一課

歐一機第 四二四二號 昭和拾年拾月廿九日附 附屬

淨書 (田村) 正校(原稿) (岸) (淨書)

昭和十年十月二十六日起草

受 信 人 新井鐵道省運輸局長  
日本旅行協会幹事

發 信 人 東郷歐亞局長  
政亞局

件 名 浦潮養看主要列車時間変更  
通知ノ件

記 録 件 名 蘇聯邦鐵道省運輸局長

本件ニ關シ今般在浦潮 渡辺總領事ヨリ別紙寫ノ通報アリタル  
ニ付御參考 爲右茲ニ送付ス

本信送付先 鐵道省 日本旅行協会  
(昭和十年十月十一日附在浦潮 館來(往)機第二四三號寫並附屬書添附)

外務省

歐亞局 第一課 昭和拾年三月拾四日接受

29 122

F-0340

0078



十一月十四日ヨリ莫斯科ニ於テ開會セラレタル第一回蘇聯邦工業及運輸業優秀労働者大會席上一「カガノウイチ」ノ鐵道交通改善ニ關スル演説ハ舊國ノ交通狀態ノ概要ヲ知ルニ足ルモノト認メラル、ニ付其要旨左記ノ通り報告ス

在オデッサ日本領事館

記

「カガノウイチ」ノ演説概要

一九三四年ノ一晝夜平均貨車積載數(貨車ノ種類及積載貨物品目ヲ明示セス)ハ全聯邦ニ亘リ五萬五千七百十七車ニシテ到底貨物輸送ノ目的ヲ達スルコト能ハサリシモ本年ニ入りテ吾人ノ努力ノ結果其數平均七萬五千車(三四%増)ニ達セリ  
右ノ内穀物ノ輸送高ハ前年ニ比シ一〇%、鑛物ハ二四%、石炭ハ一三七%ノ増加ヲ示セリ「スターリン」ノ希望トシテハ一日平均八萬貨車ノ積載ニシテ吾人未タ此數字ヲ實現シ得サルモ目下ノ狀勢ヨリ見ルニ右八萬貨車ハ素ヨリ尙夫以上ノ好成績ヲモ擧得ル見込ナリ從來貨物機關車「エ」型(3)ハ建造計畫ニ於テハ時速五三ノ料ナルニ實際ニ二ノ料程度ナル上貨車編成ニ長時間ヲ要シ又驛ニテ無用ニ水ク停車スルヲ常トセリ余ハ交通人民委員就任以來之カ改善ニ腐心シ鐵道技師及専門家ノ意見ヲ叩キタル處右速度ハ當然ノコトニシテ之

在オデッサ日本領事館

F-0340

0079

以上ノ速力ハ機關車ヲ能率以上ニ使用スルコト、ナル旨ヲ知り得タ  
リ他面本年高等專門學校ヲ卒業セル青年鐵道技術家ニツキ最新學說  
ヲ調査セルニ之亦同様ノ回答ヲ得タリ  
然レ共何レニシテモ現狀ニ放任スルコトハ須臾モ許サレサルニ付余  
ハ一策ヲ案シ「スターリン」ノ所謂「或ル事ヲ知ラントセハ直接其  
業ニ從事スル勞働者、農夫ニ開ケ」トノ主義ニ從ヒ機關車運轉手ト  
直話シ速力増加ノ方法ヲ研究セル處遂ニ現今使用ノ「エ」型機關車  
ニテモ時速四〇、五〇軒ハ別ニ機關車ヲ損セズ使用方法ノ如何ニ依  
リテ實現シ得ルヲ聞キタリ  
其後「ドンパス」ノ「クリウオノソフ」ナル機關手現ハレ如實ニ  
右談話ノ如ク高速度ノ運轉可能ナルコトヲ示シタルヲ以テ右「ク」  
機手ノ努力ハ我交通史上ニ新紀元ヲ作ルモノト云フヘシ  
我黨及政府ニ於テモ斯ノ如キ優秀機關手ノ養成ニ努力シ既ニ高速度  
ノ貨物運送ヲ漸次實行シ初メタリ

在オデッサ日本領事館

リウオノソフ「運動ニ反對スル者アリテ吾人ノ希望達成ニ障害ヲ  
與フル由ナルモ吾人ハ勇敢ニ之等ノ敵ヲ打破セントス  
從來鐵道交通ノ改善セラレサル諸原因中主ナルモノトシテハ前記ノ  
如ク專門技師ノ舊式觀念ニ捉ハレ居タルコト、驛員ノ怠慢ニ依リ貨  
車行走回數ノ少ナキコト並ニ貨車運行人旅客車ノ場合ノ如キ「ダイ  
ヤグラム」ヲ編成セザリシコトナリ從テ某地ニ於テ至急貨物ノ接到  
ヲ要スル場合ニハ不得已軍用列車時間表ニ依リタリ  
蘇聯邦ハ約八萬軒ノ鐵道延長ヲ有スルヲ以テ英國ニ於ケル海運ト同  
シク國家存立上鐵道交通ハ最も重要ナル役割ヲ演スルハ論ヲ俟タサ  
ル所ナリ  
勿論吾人ハ將來新式「エフ・デー」型強力機關車及八萬以上ノ新貨車  
建造ヲ行フト共ニ不必要ナル小驛及「ポスト」ヲ廢止シ貨物ノ高速  
力及大量輸送ヲ決行セサルヘカラス  
今哉向寒ノ季節ニ際シ鐵道從業員ハ其職務ノ高下ヲ論セス一大試金  
石ニ直面セルヲ以テ各員ノ極度ナル奮闘ヲ希望シ最後ニ我從業員中

在オデッサ日本領事館

F-0340

0080

分類 519.354-1

査査

救文出

西伯利急行列車運行状況ニ關スル件  
 西伯利鐵道ニ依リ滿洲里驛及浦潮斯德ヨリ當地ニ來ル急行列車（滿  
 洲里驛ヨリハ每週二回、浦潮斯德ヨリハ每週三回）ハ午後八時二十  
 分莫斯科「セウエルヌイ」驛着同日午後十時四十五分白露驛發ニテ  
 直通連絡西行ノコトトナリ居ル處最近「ソ」聯鐵道當局ハ臨時貨物

外務大臣 廣田 弘毅 殿

在「ソ」ソヴィエト「聯邦」  
 特命全權大使 大田 爲吉



公普通第三九四號

昭和十年十二月一日

第一課

件名  
 ソ聯鐵道當局  
 昭和拾年三月廿四日發

在オデッサ日本領事館

ニハ從來ニ倍加セル「エネルギー」ヲ以テ活動シ自己ノ力ハ自己ノ  
 時間ヲ犠牲ニシ更ニ生命ヲ堵シテ其本業ニ熱中スル者サヘ見ルニ至  
 リタルハ我前途ニ一大光明ヲ與フルモノナリ云々

在ソヴィエト聯邦日本大使館

F-0340

008:

列車ノ運行ニ全力ヲ傾注シ居リ旅客列車（旅客車使用數ハ本夏以來三割五分減）カ之ニ讓ラサルヲ得サル事情モアル關係上此等急行列車ハ一律延着シ其延着通常數時間甚シキハ一晝夜以上ニ亘リ隨テ旅客ハ當日連絡西行シ得サルハ勿論翌日迄列車内又ハ「ホテル」ニ止宿ヲ餘儀ナクセラレ（右ニハ往々寫眞ヲ必要トスルコトアリ）同時ニ當地以西ノ寢臺券更新ヲ早速「インツォリスト」係員ニ就キ確メ置カサルヲ得サル等損害不便ヲ蒙ルノ立場ニ在リ加之右急行列車當地延着時間ハ列車ノ着車少シク前迄之ヲ正確ニ豫知スルコト不能ナル事情ナル爲メ關係旅客カ邦人ナル場合當館始メ當地邦人ノ出迎、「ホテル」準備其他ニモ多大ノ不便アリ頗ル不都合ナル事態ナルニ付先般當館ヨリ「ソ」側當局ノ注意ヲ喚起シ斯カル事態ハ果シテ今後何時頃迄繼續スル見込ナリヤ本邦關係ノ向ヘ周知ノ必要モアルニヨリ「ソ」側大體ノ見込承知致度旨申入レ置タルニ「ソ」側ハ本件ニ付テハ目下關係官憲ニ於テ極力交通改善ニ努力シ居ルニヨリ日本

在ソヴェト聯邦日本大使館

側ニ於テモ「ソ」側ノ立場ヲ諒トセラレ度旨ノ説明ヲ與ヘ越セリ然ル處從來ノ經驗ニ照シ前記ノ事態カ今急ニ改善セラルヘシトハ考ヘラレサルニ付此際西伯利經由西歐ニ赴ク本邦人旅客ハ右ノ事情豫メ心得置クコト必要ナリト思考セララルニヨリ此ノ旨一般ニ周知方可能然御取計相成度此段報告旁右申進ス

本信寫送附先

- 在獨大使
- 在哈爾濱總領事
- 在浦潮斯德總領事
- 在滿洲里領事代理
- 在「ノウオシビルスク」領事

在ソヴェト聯邦日本大使館

F-0340

0082

寫

公普通第三九四號

昭和十年十二月一日

在「ソヴイェト」聯邦

特命全權大使 大田 爲吉

外務大臣 廣田 弘毅 殿

西伯利急行列車運行狀況ニ關スル件

西伯利鐵道ニ依リ滿洲里驛及浦潮斯德ヨリ當地ニ來ル急行列車（滿洲里驛ヨリハ每週二回、浦潮斯德ヨリハ每週三回）午後八時二十分莫斯科「セウエルヌイ」驛着同日午後十時四十五分白露驛發ニテ直通連絡西行ノコトトナリ居ル處最近「ソ」聯鐵道當局ハ臨時貨物列車ノ運行ニ全力ヲ傾注シ居リ旅客列車（旅客車使用數ハ本夏以來三割五分減）カ之ニ讓ラサルヲ得サル事情モアル關係上此等急行列車ハ一律延着シ其延着通常數時間甚シキハ一晝夜以上ニ亘リ隨テ旅

外務省

10. 10.

客ハ當日連絡西行シ得サルハ勿論翌日迄列車内又ハ「ホテル」ニ止宿ヲ餘儀ナクセラレ（右ニハ往々寫眞ヲ必要トスルコトアリ）同時ニ當地以西ノ寢臺券更新ヲ早速「インツォーリスト」係員ニ就キ確メ置カサルヲ得サル等損害不便ヲ蒙ルノ立場ニ在リ加之右急行列車當地延着時間ハ列車ノ着車少シク前迄之ヲ正確ニ豫知スルコト不能ナル事情ナル爲メ關係旅客カ邦人ナル場合當館始メ當地邦人ノ出迎、「ホテル」準備其他ニモ多大ノ不便アリ頗ル不都合ナル事態ナルニ付先般當館ヨリ「ソ」側當局ノ注意ヲ喚起シ斯カル事態ハ果シテ今後何時頃迄繼續スル見込ナリヤ本邦關係ノ向ヘ周知ノ必要モアルニヨリ「ソ」側大體ノ見込承知致度旨申入レ置タルニ「ソ」側ハ本件ニ付テハ目下關係官憲ニ於テ極力交通改善ニ努力シ居ルニヨリ日本側ニ於テモ「ソ」側ノ立場ヲ諒トセラレ度旨ノ説明ヲ與ヘ越セリ然ル處從來ノ經驗ニ照シ前記ノ事態カ今急ニ改善セラレハシトハ考ヘラレサルニ付此際西伯利經由西歐ニ赴ク本邦人旅客ハ右ノ事情豫メ

外務省

10. 10.

F-0340

0083

分類下門/類9項3目 4-1)

歐亞局  
公機密 第一五號

昭和十一年 一月十四日

在黑河

副領事

大本  
谷多  
隆  
郎平

昭和十一年 壹月廿參日 接受  
別紙添付

記録  
蘇聯極東鐵道主要驛站  
業務関係  
件

外務大臣 廣田 弘毅 殿

昭和十一年 一月十四日 附 在滿大使

機密 第二〇 號

宛往信寫送附ス

件名

一 蘇聯極東鐵道主要驛站ニ關スル件

心得置クコト必要ナリト思考セラルルニヨリ此ノ旨一般ニ周知方可  
然御取計相成度此段報告旁右申進ス

如後奉送件是

在樺太大使  
在ハルビン總領事  
在滿洲野付總領事  
在滿洲河内總領事代理  
在ソウオニビルスク總領事

外務省

10. 10.

F-0340

0084



機密第二〇號

昭和十一年一月十四日

在黑河

副領事 本多隆平

在滿洲國

特命全權大使 雨次郎殿

蘇聯極東鐵道主要驛狀況ニ關スル件

本件ニ關シ諜者ノ齎セル情報何等御參考迄別紙ノ通り報告ス

本信寫送付先

外務大臣

哈爾濱 齊々哈爾 滿洲里 綏芬河各總領事、領事及ヒ

領事代理

極東鐵道主要驛狀況

一 一般狀況

「ウスリ」「ザバイカル」兩鐵道共復線工事ハ殆ント完了シ一部分橋梁架設未了個所アルノミナリ

列車ノ運行ハ軍隊並軍需品輸送ノ爲メ極メテ不規則ニシテ現在各驛掲

時刻ニ依ル運行ハ全ク行ハレ居ラス「滿鹽」「イルクツク」間ハ普通

客車九晝夜ヲ要シ「滿鹽」「モスクワ」間郵便物ハ十五晝夜以上ヲ要

スル狀況ニ在リ

重要驛ヲ除キ鐵道沿線各驛ニハ鐵道警備兵約一ケ分隊（二〇乃至三〇

名）駐屯シ橋梁、信號機等ニモ監視兵立哨ス

諸主要建造物ハ總テ石炭灰ト「セメント」ヲ混合セル堅牢「セメント

」ヲ使用ス

軍建造物ハ勿論驛重要建設物ハ總テ周圍ニ垣ヲ廻ラシ警備兵監視立哨

F-0340

0085

ニ 主要各驛狀況 (別添「ウスリ」「ザバイカル」鐵道略圖參照)

(1) 「スレトネーベラヤ」驛

武市附近ノ背後要地ナル爲メ集團農場ノ外五十機ヲ有スル飛行場アリ内十五機ハ屋外ニ出サレ待機ノ姿勢ニアリ飛行演習ハ連日行ハレ居レリ

(2) 「スワボードヌイ」驛

最近軍事上ノ要地トシ重要視サレ來リ諸建設物、住民共増加シツツアリ「バム」鐵道建設事務所ノ開設アル外「チエスノコフスキ」附近ニハ「ヒミ、コンピナツト」ノ建物ヲ新築中ナリ

(3) 「シマコフスキー」驛

客年中十二輛ノ機關車ヲ入ルル大機關庫新築セラレタリ「コルホーズ」師團營營部處ニ駐屯シ居リ何等移動行ハレ居ラス

(4) 「ポリシヨイネウエル」驛

丘上ニ在リ鐵道線路ヨリ階段ヲ上リ驛舎ニ連絡ス「ダリゾロト」

勞働區ニシテ勞働者三百名ヲ越エ會社専用自動車二百臺及同修繕工場倉庫ヲ有ス尙ホ本驛ニハ軍需品倉庫及「ベンジン」倉庫等存在スル爲メ赤軍六十名駐屯シ警備ニ當リ居リ滿領ニ近キ金鑽ナル爲メ滿人在留者相當多シ

(5) 「スコウオロジノ」驛

本驛ニハ常ニ機關車三十輛以上待避線ニ停車シ居リ驛西方ニハ軍用地アリテ相當數ノ赤軍駐屯スル外豆「タンク」野砲等ヲ有ス驛附近ニ「ルフロウオ」村アリ人口約一萬五千名、大部分ハ鐵道並國營諸機關勤務者ニシテ滿人並猶太人モ相當在住ス

驛北方軍練兵場ニ接シ強制勞働者收容所アリ「ルフロウオ」村ニハ地方裁判所、民警署、區委員會分會、刑事局、第二發電所及「ウスリ」鐵道商店三軒、「ダリゾロト」商店一軒等存在ス

(6) 「モゴトチ」驛(「ザバイカル」鐵道)

驛西側ニ砲兵及歩兵ヨリ成ル知多部隊所屬ノ赤軍混成部隊ニケ聯隊駐屯ス

F-0340

0086

村落ニハ「ザバイカル」鐵道運輸事務所、及公安局分駐所、俱樂部  
人民裁判所並洲委員會分會、民警署、及刑事局等存在ス

(7) 「ウルリガ」驛（「ザバイカル」鐵道）

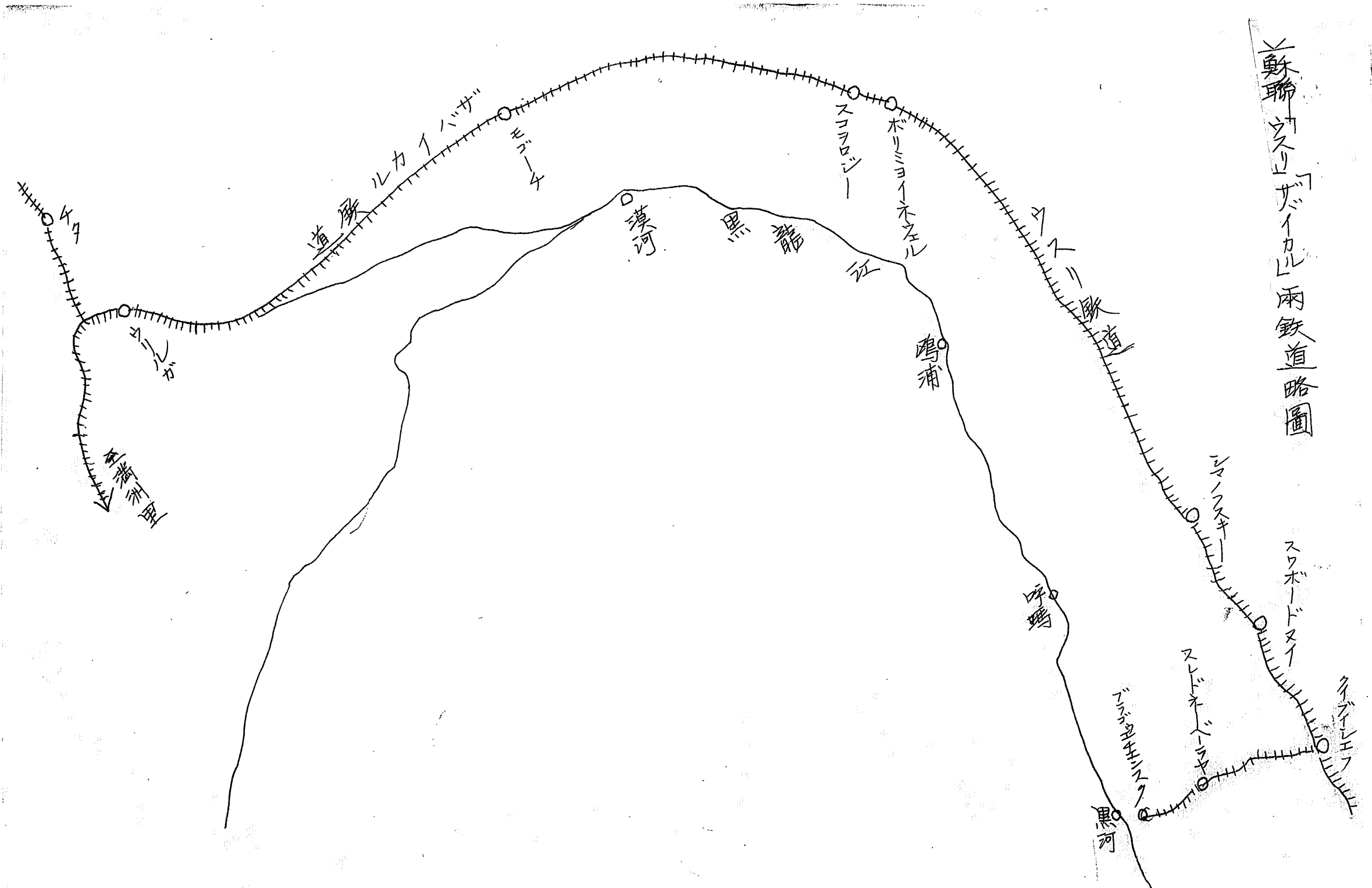
本驛引込線ニハ石油「シンデゲート」ノ「ベンジン」貯藏所アリ常ニ  
箱型「タンク」（二五屯入）七輛、圓筒型（五〇屯入）三輛常置サレ  
アル外軍用輕油軌道車二十輛並高格納庫アリ、驛ノ「ホーム」ハ約一  
「キロ」ノ長サヲ有ス

尙本驛西北方ニハ強制勞役所「バラツク」六棟（收容人員五百名）ア  
ルモ不足ナル爲メ村落中部ニモ分所ヲ設ケ過剩人員ヲ收容シ居レリ

以  
上

F-0340

0087



シベリア大陸の鉄道網

F-0340

0088